消 防 年 報

令和6年版消防統計

中津川市消防本部

目　　次

中津川市消防のあゆみ　1～30

【1消防情勢】
中津川市勢の概況　31
比　較　表　32
令和5年度当初予算　32
市一般会計予算(当初)と消防費との比較　32
市民の消防費の割合　32
中津川市消防本部機構(組織)　33
中津川市消防団機構(組織)　34
事務分掌　35
基準消防力と現有消防力の比較　36
署・団消防機械配置状況　37～38
消防吏員配置状況　39
消防吏員階級別年齢調　40
消防吏員勤続年数調　41
消防吏員諸手当支給状況　42
消防吏員特殊技術資格所有者調　42
消防吏員教養実施状況調(現職)　43
消防吏員居住地状況調　44
消防団員報酬表　45
消防団員諸手当支給状況　45
階級別団員数　45
消防団長　45
消防団員教育実施状況表　45
消防団員勤続年数調　46
年齢別消防団員数調　46
消防団員表彰　47
岐阜県消防操法大会出場分団一覧表　48
幼年消防クラブ加入状況　49
女性防火クラブ状況　50
少年消防クラブ加入状況　50
通信施設現勢表　51
水利施設表　52

【2 予防統計】
地区別危険物製造所等の数　53
危険物製造所等の数並びに施設指導状況　53
危険物製造所等の各署許可・検査状況　54
危険物仮貯蔵所その他届出状況　54
火薬類取締法に基づく許可件数　55
高圧ガス保安法(施設件数)　55
液化石油ガス法(販売事業者数)　55
各種届出の状況　56
工事別建築同意件数表　57
地区別建築同意件数表　57
建築物用途別同意件数表　58

【3 火災統計 】
火災概況　59
火災覚知別件数表　59
地区別件数表　59
月別件数及び損害額表　60
過去10年間の火災発生件数　61
過去10年間の火災損害額状況表　61
時間別火災発生件数　62
署別火災件数　62
出火原因別件数及び損害額　63

【4 救急救助統計】
救急種別出場件数　64
救急事故発生場所別搬送人員　65
救急事故種別出場･搬送件数及び搬送人員　65
地区別救急出場件数　66
年齢別搬送人員　66
程度別搬送人員　67
時間別出場件数　67
救急件数の事故種別及び割合　68
月別救急出場件数　68
曜日別救急出場件数　69
過去5年間の救急出場件数　70
地区別救急出場状況　71
事故種別救助出場・活動件数　72
主な救助活動　72

【5 気象統計】
月別降雨量統計表　73
月別気象統計表　74

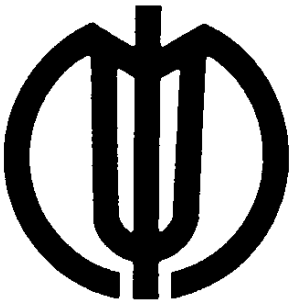
はしがき

この統計は、令和6年中における中津川市の消防状況を収録し、併せて累年のこれと比較対照し、将来の消防行政の資料にすることを目的として編さんしたものです。

なお、この『消防年報』諸表は特別の記事を除いては、令和6年12月末日をもって収録しました。

中津川市消防本部

市　章



近村合併で市域が輪のように広がり、しかもこれが団結の和を示し、これによって市勢が一段と躍進をみることを象徴したものです。

市　民　憲　章

わたくしたち中津川市民は、

誇りをもって自分の仕事にはげみましょう
楽しい家庭、あかるい職場を育てましょう
きまりを守り、住みよい社会にいたしましょう
文化を育て、豊かな郷土をつくりましょう
自然を愛し、美しいまちを築きましょう

中津川市消防のあゆみ

中津川市は、中山道の宿場町として木曽及び飛騨地方の交通ならびに物資集散の要所として発達してきた街である。

そのなかで消防は、施設及び人員を活用して、住民の生命、身体及び財産を保護する任務をもって常に犠牲的精神に培われて郷土の守りとなり、郷土と共に育まれ、郷土と共にあるいてきた。

明治１７年	落合村に私設消防組が、手押ポンプ１台と４部制６０名の編成をもって発足した。
明治１８年	千旦林村に私設消防組が、２０７名をもって発足した。
明治１９年１０月	中津町は、間半兵衛を発起人として、いろは３組（本町組をい組、新町組をろ組、茶屋坂組をは組）の私設火消組を設立し、各々組員３０名、腕用ポンプ１台、とび、梯子が整備された。
明治２０年	茄子川村に私設消防組が、１２７名で発足した。
明治２９年　２月	落合村は、公設消防組に改革し、組頭に鈴木清通が就任。
明治２９年　７月　３日	時世の推移と、世論の要請により中津町いろは組は、公設となり、中津町消防組と改革され、組頭に間鷲郎が就任。
明治３１年　４月　１日	駒場及び手賀野の両村の合併、中津町の区域の増大により組員は２００名となり、腕用ポンプ５台が常備された。
明治４０年１０月２９日	神坂村は、組員１９５名をもって、公設消防組が発足した。
大正　４年	中津町は組頭以下３５０名、他に警防隊５０名、機械はガソリンポンプ１台、腕用ポンプ７台が常備された。
大正　５年　１月２４日	神坂村消防組は、馬籠大火の際の功により、長野県警察部長から金馬簾一條の使用を認許。
大正　６年	中津町は、岐阜県知事から模範消防組として表彰の栄誉を受けた。
大正　９年　５月	茄子川の消防組を、公設消防組に改組した。
６月　１日	苗木町は、各地域で区長を中心に消防活動を行ってきたが時世を推移し、公設消防組を設立した。
大正　９年　６月	千旦林の消防組を公設消防組に改組した。
１２月１７日	阿木村は、２部制をもって公設消防組の設立をした。
大正１１年　３月２３日	神坂村消防組は、大正１０年１２月２１日吾妻村大火の際消防に従事し、組員一致協力、職責を尽くした功労により長野県警察部長から金馬簾表彰を受賞。
大正１４年　７月２２日	中津町は、金馬簾表彰を受賞。
昭和　２年	中津町は、ガソリンポンプ「ルノー」を配置。
昭和　４年　４月　１日	千旦林組と、茄子川組が統合し、坂本消防組となった。

昭和　４年　　中津町は、ガソリンポンプ「ルノー」を配置。
昭和　７年　４月　　落合村消防組は、岐阜県知事から金馬簾表彰を受賞。
　　１１月２３日　中津町消防組は、金馬簾表彰を受賞。
昭和　９年　３月１５日　苗木町消防組、金馬簾表彰受賞。
　　５月２０日　阿木村消防組、金馬簾表彰受賞。
昭和１３年１２月　　坂本村消防組、金馬簾表彰受賞。
昭和１４年　４月　１日　国の施策に伴い、消防組は全国一斉に警防団として発足した。中津町警防団（団員 511 名．9 分団）苗木町警防団（団員 180 名．本部．3 ヶ分団）坂本村警防団（団員 189 名．6 部）落合村警防団（団員 122 名．7 班）阿木村警防団（団員 232 名．3 部）神坂村警防団（団員 200 名．本部．2 部）
昭和２２年　４月３０日　消防団令が公布され、消防団令の附則で警防団が廃止、新たに全国の市町村に自主的、民主的な消防団が組織された。
　　１０月　５日　苗木町消防団創設。
　　１０月　８日　阿木村消防団結団式。
　　１０月　９日　落合村消防団結団式　苗木町消防団発会式。
　　１０月１１日　中津町消防団発団式。
　　１２月２３日　国は消防組織法を新たに公布し施行期日を昭和２３年３月７日とした、長い伝統と歴史をもったこれまでの消防に画期的改革が行われた。ここに消防は、自治体消防として新しく発足した。
昭和２３年　４月　１日　中津町は、自治体消防として従来の９ヶ分団制を廃止、本部と４ヶ分団、定員２６３名となった。

（消防本部の創設）

昭和２４年　５月　１日　中津町消防本部設置規則が公布され、ここに中津町消防本部が誕生し、消防業務を行うことになる。
初代消防長に町長市岡訒介就任。
　　１１月　１日　消防長市岡訒介辞任により間良平就任。

（常設消防署創設）

昭和２５年　４月　１日　中津町消防職員定数条例の一部改正条例公布、消防吏員４名で中津町常設消防署として即日中津町消防会館において執務を開始した。
　　４月２１日　名古屋市振興自動車株式会社所有の元軍用のものを購入し、消防署１号車として配置。
　　５月　２日　中津町消防団は、優良消防団として岐阜県知事より金馬簾表彰を受賞。
　　６月　　中津町郷原幸蔵氏よりシボレー（１９３５年式）の寄贈を受け、本州製紙の協力によって人員輸送用消防車に改装、中津町消防団南分団に配置。
　　６月　１日　消防吏員１名増員し、計５名となる。

昭和２５年　９月　４日　消防吏員３名増員し、中津町消防団中分団より毎日２名の応援を得て、消防長以下１０名となる。

（消防署創設）

昭和２６年　４月　１日　苗木町の合併、新しく中津川町の誕生により中津川町消防本部のもとに消防署が設置された。

５月　１日　常設消防団員の４名を新しく正規の消防吏員として登用し１４名となる。

８月１４日　ダイハツ自動三輪車にＶ８エンジン、再成三段押しタービン積載艤装消防車購入、苗木第１部に配置。

１０月１０日　日本機械株式会社で艤装した、いすずシャーシバランスタービン１トン積水槽付（放水銃）速消車を購入、消防署１号車として配置。

昭和２７年　４月　１日　中津川町が新しく中津川市として誕生。

５月　１日　従来の消防団を改組して、５ヶ団に改め、連合消防団制を採り、連合消防団長に篠田初太郎就任。

昭和２８年　９月２５日　恵東産業株式会社からトヨタ貨物自動車１台を購入し、中津第４消防団に輸送車として配置。

１１月２６日　中津第１消防団及び第２消防団は、県消防協会長の竿頭綬表彰を受ける。

昭和２９年　３月３１日　連合消防団長篠田初太郎退任。

４月　１日　中津川市消防団は従来の５ヶ団編成の機構を改組し、新しく中津川地区及び苗木地区において、各々消防団を編成して、中津消防団長に丸山敏治、苗木消防団長に後藤文男就任。

７月１０日　坂本村の合併により、坂本消防団を中津川市消防団として受け入れ、定員１８０名で坂本消防団長に小栗峰郎就任。

８月　６日　中津川市において、検閲官に岐阜県知事武藤嘉門氏を迎え、恵那地区機動連合演習を実施する。

９月　落合村消防団金馬簾表彰を受賞。

１０月１５日　消防長兼消防署長間良平辞任により、３代目消防長事務取扱に市長市岡訒介、２代目消防署長に今井兼光就任。

昭和３０年　２月１４日　消防長事務取扱市長市岡訒介辞任により、４代目消防長事務取扱として、市長竹村寿吉就任。

４月　１日　プリンス中型車を千代田ポンプ製作所で２段バランスポンプ車に艤装購入する。

７月１５日　中津川市消防団消防音楽隊を隊員２２名をもって編成する。

９月　３日　坂本消防団長小栗峰郎辞任のため、団長に勝 豊就任。

９月２０日　合同物産株式会社よりダッチブラザース（ウエボンキャリア）三段バランスタービン中型車購入、中津第１部へ配置。

１０月　１日　苗木消防団は成績優秀をもって金馬簾表彰を受賞。

	１０月　４日	４月１日に購入したプリンス中型消防車を坂本消防団へ配置
昭和３１年	９月２８日	消防長事務取扱市長竹村寿吉辞任により、５代目消防長事務取扱に助役柘植八郎、消防署長今井兼光辞任により３代目消防署長に小木曽幸雄就任。
	９月３０日	落合村の吸収合併に伴い、落合消防団を中津川市消防団として受け入れ、落合消防団長に吉村勝輔就任。
	１０月　１日	優良消防団として坂本消防団が金馬簾表彰を受賞。
昭和３２年	６月１０日	中津川市消防職員等賞じゅつ金条例制定。
	１１月　１日	阿木村が中津川市に合併し、阿木消防団を中津川市消防団として受け入れ、阿木消防団長に小栗浩就任。
昭和３３年	２月１１日	中津消防団は、成績優秀により、日本消防協会長表彰による竿頭綬を受賞。
	４月	落合消防団長吉村勝輔退任により、団長に栗谷本芳一就任。
	４月　１日	阿木消防団長小栗浩退任により、団長に後藤一枝就任。
	５月１０日	消防本部及び消防署を旧自治警察庁舎へ移転する。
	１０月１５日	長野県西筑摩郡神坂村の越県合併により、神坂村消防団を中津川市消防団として編入する。神坂消防団長に島崎庄一就任 中津川市消防団は中津、苗木、坂本、落合、阿木、神坂の６ヶ団となり、定員８２２名を数えることとなった。 ここで、中津川市消防団長丸山敏治を連合消防団長として、中津川市消防団は６団により運営されることとなった。
昭和３４年	１月	森田ポンプ工業株式会社からトヨタ自動車を艤装し、落合第３部へ配置。
	２月２０日	中津川市消防長事務取扱助役柘植八郎辞任により、６代目消防長に小木曽幸雄就任、署長を兼ねることになった。
	９月　１日	町村合併に伴う中津川市の中津、苗木、坂本、落合、阿木、神坂の各消防団が統合され、中津川市消防団として発足した。 中津川市消防団は、中津分団、苗木分団、坂本分団、落合分団、阿木分団、神坂分団の１団６分団制とする。 中津川市消防団長に丸山敏治就任。
昭和３５年	７月１６日	中津分団第１部及び苗木分団にニッサンジープ消防車を配置
	１１月２８日	中津川市危険物安全協会発足。
昭和３６年	４月　７日	いすず自動車（３ｍシャーシ）を森田ポンプ工業株式会社において艤装（タンク水 1,500 ﾘｯﾄﾙ）購入、消防署１号車（従来の１号車を２号車、２号車を３号車）として配置。
	４月１３日	中津川市消防団音楽隊発足５周年記念行事として、市中行進及び一般公開大演奏会が開催された。
	４月３０日	岐阜トヨタ株式会社から消防団輸送車として普通四輪車を艤装購入、中津分団第４部に配置。
	１２月１６日	中短波陸上無線電話・基地局１基・移動局２基を設置し運用

開始。

昭和３７年　３月２６日　中津川市火災予防条例制定。

４月２９日　第１１回岐阜県消防操法大会が中津川市会所沢グランドで開催される。

昭和３８年　８月　１日　消防長兼消防署長小木曽幸雄辞任により、７代目消防長事務取扱に市長間孔太郎、４代目消防署長に釜田政雄が就任。

８月２１日　中津川市自治体消防発足１５周年記念式典が市民スポーツセンターにおいて県知事代理後藤清氏、県消防課長、県議会議長代理松浦県議、中原消防協会長を迎えて実施された。記念行事として、団旗を新調する。

１２月　１日　中津川市消防団は優良消防団として、岐阜県知事より知事旗表彰を受賞。

１２月１７日　中津貨物株式会社社長郷原信一氏から、いすず救急車を寄贈され消防署に配置。

昭和３９年　８月１７日　中津川市非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例制定。

１２月１０日　消防長事務取扱市長間孔太郎辞任により、８代目消防長事務取扱に助役佐藤知一が就任。

昭和４０年　２月１１日　中津川市消防団は、優良消防団として、日消協会長表彰を受賞、東京虎ノ門日消会館にて受賞の伝達を受ける。

昭和４１年１１月　７日　明治神宮外苑絵画館前において、日本損害保険協会より消防ポンプ自動車の寄贈を受ける。

１１月１５日　日本損害保険協会から寄贈された消防ポンプ自動車の受入入魂式が市民スポーツセンターにおいて開催され「火災保険号」と命名し、消防署に配置。

昭和４２年　１月　４日　中津川市行政の正常化に伴い、中津川市消防団神坂分団の山口村に所属する３３名を山口村消防団へ転入、中津川市消防団定員７８９名となる。

１月２３日　中短波陸上無線電話を超短波陸上無線電話に更新、基地局１基・移動局３基を設置。

３月２７日　中津川市消防団員等公務災害補償条例制定。

４月　１日　中津川市連合婦人防火クラブ会員３，８８０名で結成される。初代会長に松田ぎん就任。

昭和４３年　３月　５日　消防長事務取扱佐藤知一辞任により、９代目消防長事務取扱に市長間孔太郎就任。

５月１５日　消防長事務取扱市長間孔太郎辞任により、１０代目消防長事務取扱に市長西尾彦朗就任。

８月　６日　中津川市尾鳩地内マンホールで発生した事故に救急隊員として出動した千藤武彦消防士殉職する。功績により消防司令補に２階級昇進する。

	１１月　９日	自治体消防発足２０周年記念式典を中津川市東小学校校庭において、県知事代理、消防防災課長を迎え挙行した。 記念行事として、各分団の馬簾及び分団旗を新調した。
	１１月　９日	森田ポンプ工業株式会社から消防ポンプ自動車２台購入、中津分団第２部及び中津分団第３部に配置。
	１２月　１日	消防長事務取扱市長西尾彦朗辞任により、１１代目消防長事務取扱に助役小池保就任
昭和４４年	３月３１日	岐阜トヨタ株式会社から４４年式救急車を購入し、消防署へ配置
	３月３１日	超短波陸上無線電話（移動局）１基購入し、救急１号車に設備する
	１１月　５日	森田ポンプ工業株式会社から消防ポンプ自動車１台を購入し、阿木分団に配置
	１２月　１日	第１５回岐阜県消防大会を中津川市市民スポーツセンターにおいて挙行する。
昭和４５年	２月　９日	中津川市消防署救急隊発足。
昭和４６年	３月　４日	中津川市消防本部、消防団は成績優秀により消防庁長官竿頭綬表彰を受賞。
	８月２５日	森田ポンプ工業株式会社から消防ポンプ自動車１台を購入し、中津分団第１部に配置。
昭和４７年	４月　１日	消防長事務取扱助役小池保退任により、１２代目消防長に丸山敏治就任。 中津川市消防団長丸山敏治退任により、団長に菅井三平就任
	９月　１日	機構改革により消防本部（署）に総務課（庶務係・整備係）警防課（予防係・消防係）救急隊の２課１隊を置く。
	９月１１日	いすず自動車（３ｍシャーシ）を森田ポンプ工業株式会社において艤装（タンク水 1,500 ﾘｯﾄﾙ高発泡積載）購入、消防署１号車（従来の１号車を３号車、３号車を廃車）として配置
	１２月２２日	宮嶋建設株式会社から消防指令車兼工作車（三菱 J32 ジープ）の寄贈を受け、中津川市消防団本部へ配置。
昭和４８年	９月　９日	森田ポンプ工業株式会社から消防ポンプ自動車１台を購入し、落合分団第１部に配置。
	９月１４日	岐阜県共済農業協同組合連合会から救急車（トヨタ RH18V）の寄贈を受け、救急２号車として消防署へ配置。
昭和４９年	８月３１日	森田ポンプ工業株式会社から消防ポンプ自動車１台を購入し、坂本分団第２部に配置。
	１０月３０日	中津川市消防庁舎起工式挙行。
昭和５０年	２月１２日	日本損害保険協会より救急車１台寄贈を受け、救急３号車として消防署に配置。
	４月　１日	消防本部（署）機構改革により総務課（庶務係・管理係）警

防課（消防係・指導係・救急係）予防課（予防第１係・予防第２係）を編成する。
中津川市消防協会設立、協会長に団長菅井三平就任。

昭和５０年　４月　１日　消防友の会設立　初代会長に菅井大作就任。

４月　１日　茄子川産業振興財団より消防ポンプ自動車（国研 A2 級森田公立 103KW. 140PS 級. ホイルベース 2m 級）の寄贈を受け坂本分団第１部へ配置。

７月１１日　財団法人日本消防協会より三菱キャラバンの寄贈を受け、消防広報車として消防署に配置。

８月　１日　中津川市消防庁舎移転。

８月　７日　中津川市消防庁舎竣工式挙行。

８月１０日　中津川市消防団に分団まといを配布、中津川市第１回まとい祭を挙行する。

９月１０日　消防長丸山敏治辞任により、１３代目消防長事務取扱に助役小池保就任。

９月２３日　森田ポンプ工業株式会社より消防ポンプ自動車１台購入し、神坂分団第２部に配置する。

１１月　１日　中津川市連合婦人防火クラブは岐阜県消防大会において表彰旗を受賞。

１１月　９日　岐阜県消防連合演習を中津川市において実施する。

１１月　９日　消防友の会２代目会長に篠田初太郎就任。

１１月１０日　小栗屋石油株式会社より消防化学車（いすゞ50 年式ポンプ）の寄贈を受け、消防署に配置。

昭和５１年　４月　１日　消防長事務取扱助役小池保退任により、１４代目消防長に釜田政雄就任し、消防署長を兼ねる。

８月　１日　４代目消防署長釜田政雄辞任により、５代目消防署長に浅野昭一就任。

９月１７日　森田ポンプ工業株式会社より消防ポンプ自動車１台購入し、苗木分団第１部に配置。

昭和５２年　９月１６日　森田ポンプ工業株式会社より消防ポンプ自動車１台購入し、中津分団第３部に配置。

１１月　９日　日本損害保険協会から寄贈された水槽付消防ポンプ自動車の受入式を消防署において実施し「火災保険号中津川」と命名し、消防署に配置。

１２月　６日　中津川市消友会発足　初代会長に今井淳一就任。

昭和５３年　３月　７日　日本武道館において、天皇陛下の御臨場を仰ぎ挙行された自治体消防制度３０周年式典にて中津川市消防団は、全国代表として消防庁長官表彰旗を受賞。

５月２８日　自治体消防制度３０周年記念式典及び消防庁長官表彰旗受賞披露式典を中津川文化会館において、県知事代理、消防防災

課長を迎え挙行した。

昭和５３年　９月１３日　森田ポンプ工業株式会社より消防ポンプ自動車２台購入し、中津分団第４部と苗木分団第２部に配置。

昭和５４年　２月２１日　社団法人日本損害保険協会より救急車１台寄贈を受け、救急４号車として消防署に配置。

４月　１日　消防長釜田政雄退任により１５代目消防長に浅野昭一就任、６代目消防署長に二村勝嘉就任。

８月　７日　東海地震に係る地震防災対策強化地域に東海６県１７０市町村（中津川市）が指定された。

８月　７日　第２回まとい祭を挙行する。弓張提灯８５０個及びまとい１４本を製作する。

９月２７日　森田ポンプ工業株式会社より消防ポンプ自動車１台購入し、坂本分団第１部に配置。

１１月　１日　第２５回岐阜県消防大会を中津川文化会館において挙行する。

１２月２８日　株式会社ウスイ消防より救助工作車１台購入し、消防署に配置。

昭和５５年　８月２１日　財団法人日本消防協会より防災用車両１台寄贈を受け、消防署へ配置。

１１月　１日　当市消防団は成績優秀として岐阜県知事旗竿頭綬表彰を受賞

１１月１６日　中津川市少年消防クラブ５６名にて発足する。

１１月２７日　東京後楽園球場において天皇陛下の御臨場を仰ぎ挙行された全国消防団百年記念大会に、当市消防音楽隊は栄誉ある演奏会に出演。

昭和５６年　４月　１日　消防長浅野昭一退任により、１６代目消防長に菅井三平就任、消防次長に川上源一就任。

４月　１日　中津川市職員定数条例を一部改正し、消防職員３名を増員、定員４６名となる。

８月１３日　夏祭りに際し天狗みこしを製作する。

８月２９日　森田ポンプ工業株式会社より消防ポンプ自動車１台購入し、落合分団第３部に配置（更新）。

１０月２４日　森田ポンプ工業株式会社より消防ポンプ自動車１台購入し、消防署に配置（更新）。

昭和５７年　４月　１日　中津川市消防団長菅井三平退任により、団長に市川博就任

５月　１日　市政３０周年を記念として菅井三平氏から消防本部旗の寄贈を受ける。

５月１０日　中津川市幼年消防クラブ（恵峰学園グループ）４３０名にて発足する。

８月１３日　夏祭りに際し烏天狗みこしを製作する。天狗の面 1,000 個を配る。

８月３１日　森田ポンプ工業株式会社より消防ポンプ自動車１台購入し、

阿木分団第１部に配置。

昭和５８年　３月　７日　社団法人日本損害保険協会より救急車１台寄贈を受け、救急２号車として消防署に配置。

３月３１日　消防次長川上源一退任。

４月　１日　中津川市消防団らっぱ隊発足。

６月２３日　岐阜トヨタ自動車株式会社より消防指令車１台購入し、消防本部に配置。

７月２７日　ウスイ消防株式会社より消防ポンプ自動車１台購入し、中津分団第２部に配置。

昭和５９年　９月２４日　株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車１台購入し、中津分団第３部に配置

１１月　１日　岐阜市で行なわれた第４回岐阜県消防らっぱ競練会に出場し、準優勝の栄誉を得た。

昭和６０年　１月１２日　中津川市幼年消防クラブ（中津川学園グループ）２９３名で発足する。

４月　１日　消防署長二村勝嘉退任により、７代目消防署長に松原正就任

８月２０日　森田ポンプ工業株式会社より水槽付消防ポンプ自動車（ＭＥ－５）１台購入し、消防署に配置。

昭和６１年　２月１９日　社団法人日本損害保険協会より救急車１台寄贈を受け、救急３号車として消防署に配置。

８月２７日　岐阜県婦人防火クラブ運営協議会指導者研修会を中津川文化会館にて実施する。

昭和６２年　３月３１日　株式会社ウスイ消防より、はしご付消防自動車（スーパージャイロラダー）１台購入し、消防署に配置。

４月２８日　中津川市消友会２代目会長に安江民平就任。

６月　７日　中津川市消防百年大会を挙行する。

８月　２日　第３６回岐阜県消防操法大会が高富町で開催され、当市消防団は準優勝の栄誉を得た。

８月　５日　株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車１台購入し、中津分団第１部に配置。

昭和６３年　２月　３日　中津川市コミュニティー消防センターを消防本部敷地内に建設する。

３月　７日　有限会社ロンドン（代表取締役菅井三平氏）より救急車１台寄贈を受け「トモエ号」と命名し、救急１号車として消防署に配置する。

６月　１日　消防長菅井三平辞任により、１７代目消防長に宇野巌就任

６月　１日　警防課に防災係を増設。

８月　８日　株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車１台購入し、阿木分団第３部に配置。

１１月　１日　各務原市で行なわれた第９回岐阜県ラッパ競練会において、

		当市消防団は準優勝の栄誉を得た。
昭和６３年１１月	１日	自治体消防４０周年を記念して、当市は岐阜県消防協会総裁表彰旗を受ける。
平成　元年	４月　１日	定数条例の一部改正により２名新規採用し、消防職員４８名となる。
	８月　９日	財団法人日本消防協会より電源照明用資器材等搬送車の寄贈を受け、消防本部に配置する。
	８月３０日	株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車１台購入し、坂本分団第３部に配置。
平成　２年	４月　１日	消防長宇野巖退任により、１８代目消防長に森研一、消防次長に松原正就任、消防署長を兼務する。
	５月２９日	消防友の会長篠田初太郎辞任により３代目会長に二村勝嘉就任。
	８月　５日	第３９回岐阜県消防操法大会が安八町で開催され当市消防団は準優勝の栄誉を得た。
	９月２８日	株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車１台購入し、落合分団第１部に配置。
	１１月１６日	社団法人日本損害保険協会から小型動力ポンプ付水槽車（水5,000ﾘｯﾄﾙ）の寄贈を受け消防署に配置。
平成　３年	４月　１日	消防長森研一退任により、１９代目消防長に大島修就任、消防次長に加藤良久就任、又松原正退任により８代目消防署長を兼務する。
	８月　５日	第４０回岐阜県消防操法大会が多治見市で開催され当市消防団は、準優勝の栄誉を得た。
	９月３０日	株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車１台購入し、坂本分団第２部に配置。
平成　４年	４月　１日	中津川市消防団長市川博退任により、団長に松田周一就任
	４月　６日	坂本分署建設用地（2,891㎡）購入。
	９月２２日	株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車１台購入し、神坂分団第２部に配置。
	９月２２日	茄子川産業振興財団より消防ポンプ自動車１台の寄贈を受け坂本分団第２部に配置。
平成　５年	４月　１日	消防長大島修退任により、２０代目消防長に加藤良久就任、消防次長に金子俊次就任、９代目消防署長を兼務する。
	４月　１日	定数条例の一部改正により、定数５１名となり１名市から転属、３名新規採用し、消防職員実員４９名となる。
	８月２５日	株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車１台購入し、中津分団第３部に配置。
平成　６年	２月１５日	中津川市消防団は、優良消防団として日本消防協会長（竿頭綬）を受賞。

	４月　１日	定数条例の一部改正により、定数６１名となり７名新規採用、１名市へ転属、１名退職し、消防職員実員５４名となる。
平成　６年	５月２４日	消防友の会長二村勝嘉辞任により４代目会長に市川博就任。
	８月　７日	第４３回岐阜県消防操法大会が大野郡で開催され当市消防団は、準優勝の栄誉を得た。
	１０月２５日	株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車１台購入し、苗木分団第１部に配置。
平成　７年	４月　１日	５名新規採用、消防職員実員５９名となる。
	５月２７日	中津川市消防本部は、同年１月１７日発生した阪神・淡路大震災の消防応援活動により、消防庁長官から感謝状を受賞。
	６月２０日	財団法人日本消防協会より指揮広報車（緊急車仕様）１台寄贈受け、消防本部に配置。
	８月２５日	第２４回全国消防救助技術大会(北九州市)ロープ登はんに１名出場。
	１１月２０日	株式会社ウスイ消防より化学防護服２式を購入し、消防署に配置。
平成　８年	３月１２日	株式会社ウスイ消防より水槽付消防ポンプ自動車１台購入し、坂本分署へ配置。
	３月２５日	坂本分署庁舎竣工式挙行。
	４月　１日	消防長加藤良久退任により、２１代目消防長に金子俊次就任、消防次長に小原良一就任、１０代目消防署長を兼務する。
	４月　１日	４名新規採用、消防職員実員数６１名となる。
	４月　１日	坂本分署業務開始。分署長に加藤一義就任。
	４月　１日	機構改革により防災係が、市部局の防災環境部広報防災課へ移る。
	７月２２日	財団法人日本消防協会より防火広報車１台寄贈受け、消防署へ配置。
	８月　４日	第４５回岐阜県消防操法大会が中津川市中津川公園多目的広場で開催され、当市消防団は、準優勝の栄誉を得た。
	１１月　１日	中津川市消防団は、岐阜県知事から消防団年間優秀賞を受賞
	１２月１３日	有限会社伊藤自動車サービス工場より高規格救急自動車１台購入し、消防署へ配置。
	１２月１３日	株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車１台購入し、坂本分団第１部へ配置。
平成　９年	３月２８日	菅井康義氏から連絡車の寄贈を受け、消防署へ配置。
	４月　１日	消防長金子俊次退任により、２２代目消防長に松田宣男就任、消防次長に高橋勝志就任、１１代目消防署長を兼務する。 坂本分署長に、山本金次就任。
	４月　１日	中津川市消防団条例の改正により、定員７８９名から７３９名となる。

	８月　３日	第４６回岐阜県消防操法大会が各務原市で行なわれ、当市消防団は、準優勝の栄誉を得た。
平成　９年	１０月２９日	中津川市消防団は、財団法人岐阜県消防協会長から成績優秀により、表彰旗を受賞。
	１２月２１日	中津川市駒場字角田７７７－４地内に中津分団第３部消防器具庫１棟を新築する。
平成１０年	３月１１日	株式会社ウスイ消防より救助工作車１台購入し、消防署へ配置。
	４月　１日	坂本分署長に、松葉和正就任。 中津川市消防団条例の改正により、定員７３９名から７０１名となる。
	８月　２日	第４７回岐阜県消防操法大会が郡上郡明宝村で行なわれ、当市消防団は、優勝の栄誉を得た。
	１０月　８日	第１６回全国消防操法大会が横浜市戸塚区横浜市消防訓練センターで行われ、当市消防団は、準優勝の栄誉を得た。
	１１月　５日	株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車１台購入し、中津分団第４部へ配置。
	１１月２３日	中津川市阿木見沢１５２１－１２他地域内に、阿木コミュニティー消防センター１棟を新築する。
平成１１年	４月　１日	消防次長に市岡芳朗就任、消防総務課長を兼務する。
	４月　８日	株式会社トキワより寄付を受け、中津スバル販売（株）より指令車１台購入し､消防署へ配置。
平成１２年	３月１５日	株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車１台購入し、消防署へ配置。
	４月　１日	消防本部次長兼坂本分署長に、市岡芳朗就任。
	１０月１８日	有限会社伊藤自動車サービス工場より２Ｂ型救急自動車１台購入し、消防署へ配置。
	１１月２４日	株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車１台購入し、苗木分団第２部へ配置。
平成１３年	４月　１日	消防長松田宣男退任により､２３代目消防長に高橋勝志就任、消防次長に市岡芳朗就任、１２代目消防署長を兼務する。 坂本分署長に、今井輝幸就任。
	４月　１日	２名新規採用、消防職員実員数６１名となる。
	７月　３日	株式会社ウスイ消防より化学消防ポンプ自動車１台購入し、消防署へ配置。
	１１月２７日	アンシンク株式会社より消防ポンプ自動車１台を購入し、落合分団第１部へ配置。
平成１４年	４月　１日	消防緊急通信指令施設運用開始。
	４月　１日	消防次長に加藤一義就任。消防総務課長を兼務する。
	８月　４日	第５１回岐阜県消防操法大会が本巣郡本巣町で行なわれ、当

市消防団は優勝の栄誉を得た。

１０月２４日　第１８回全国消防操法大会が横浜市戸塚区横浜市消防訓練センターで行なわれ、当市消防団は準優勝の栄誉を得た。

平成１４年１１月２０日　岐阜ヤナセ株式会社より消防ポンプ自動車を購入し、阿木分団第１部へ配置。

１２月２２日　中津川市中津川上金１１２１－５地内に、中津東コミュニティ消防センターを新築する。

平成１５年　４月　１日　消防長高橋勝志退任により、２４代目消防長に梅本義広就任、消防次長に加藤一義就任、１３代目消防署長を兼務する。
消防次長に山本金次就任、消防総務課長を兼務する。
坂本分署長に幸脇文平就任。

４月　１日　３名新規採用、消防職員実員数６０名となる。

５月１２日　中津川市消防団は、市民栄誉賞を受賞する。

１０月１６日　岐阜日産自動車株式会社より高規格救急自動車１台購入し、坂本分署へ配置。

１１月２０日　東京ドームにおいて行われた自治体消防５５周年式典に、中津川市消防らっぱ隊及び女性音楽隊が出場する。

１２月１３日　中津川市飯沼字大野宮の前８１３－３地内に阿木分団第２部消防器具庫１棟を新築する。

平成１６年　２月１０日　消防庁舎耐震改修工事完了する。

４月　１日　２名新規採用、消防職員実員数６２名となる。

８月　３日　第５３回岐阜県消防操法大会が下呂市リバーサイドスタジアムで行われ、当市消防団は優勝の栄誉を得た。

平成１７年　１月　１日　消防長梅本義広転任により、２５代目消防長に加藤一義就任
５名転任採用、消防実員数６６名となる。

２月１０日　中津川市消防団は、成績優秀により、財団法人日本消防協会から特別表彰「まとい」受賞。

２月１３日　中津川市、恵北地区（坂下町、川上村、加子母村、付知町、福岡町、蛭川村）長野県山口村と合併する。中津川市消防本部に恵北消防組合消防本部、恵那市消防本部蛭川分署（ただし、平成１９年３月３１日まで恵那市へ消防事務委託）が編入され、１本部３消防署３分署体制となり、消防職員実員数は１０８名となる。新たに救急課を設立し、中消防署長に松葉和正就任、北消防署長に田口松男就任、西消防署長に今井輝幸が就任する。中津川市消防団、恵北地区消防団、蛭川村消防団、山口村消防団は、連合制をとり８消防団制となる。これにより、消防団員実員数は１７７３名となる。

２月２８日　財団法人日本消防協会より防火広報車１台寄贈を受け、中消防署に配置。

１１月２４日　岐阜ヤナセ株式会社より消防ポンプ自動車を購入し、中津分

団第２部に配置。

平成１７年１２月１６日　中津川市落合字三五沢２６－８４１、２６－８４３地内に落合分団西部消防器具庫１棟を新築する。

平成１８年　３月１２日　中津川市福岡１０８１番地１０地内に福岡消防団第三部消防器具庫１棟を新築する。

平成１８年　４月　１日　中津川市消防団長松田周一退任により、団長に丸山輝城就任、兼ねて中津川市消防協会長に就任。
４名転任採用、消防職員実員数１１２名となる。
中消防署長に今井輝幸就任、北消防署長に松葉和正就任、西消防署長に田口松男が就任する。

４月　１日　消防友の会長市川博退任により５代目会長に松田周一就任。

１０月２８日　設楽俊介氏、作詞、作曲（昭和 23 年）による「中津町消防団歌」碑を設楽克彦氏より寄贈され署前に建立する。

１２月２３日　中津川市中津川字中島３６４９－１１地内に中津川消防団中津分団第４部消防器具庫１棟を新築する。

平成１９年　４月　１日　中消防署長を消防次長山本金次兼任、西消防署長田口松男退任により、西消防署長に松葉和正就任、北消防署長に今井輝幸が就任する。

９月２０日　いすゞ自動車東海株式会社恵那支店より資機材運搬車（クレーン付）１台購入し、中消防署へ配置。

１２月１０日　株式会社ウスイ消防より水槽付消防ポンプ自動車１台購入し、中消防署へ配置。

平成２０年　４月　１日　消防長加藤一義退任により、２６代目消防長に松葉和正就任、中津川市消防団として、連合制から一団に統合し再編成し、１３分団　１６８８名となる。

４月　１日　３名新規採用、消防職員実員数１１２名となる。

５月１５日　消防次長に今井輝幸が就任し、中消防署長を兼任、北消防署長に加藤正和が就任する。

１２月１７日　アンシンク株式会社より消防ポンプ自動車を購入し、中津分団第１部に配置。

平成２１年　２月　７日　中津川市苗木１７６７－９地内に苗木分団第１部室屋コミュニティー消防センター１棟を新築する。

４月　１日　消防次長に加藤正和が就任し、中消防署長を兼任、今井輝幸消防次長は西消防署長を兼任、北消防署長に内藤龍志が就任する。

４月　１日　３名新規採用、消防職員実員数１１１名となる。

８月２７日　岐阜トヨタ自動車株式会社中津川店より高規格救急車１台購入し、中消防署へ配置。

９月　８日　中津川市千旦林４３１－１５地内に坂本分団第２部六地蔵消防器具庫１棟を新築する。

	１０月　１日	中津川市消防団条例を改正し、基本団員を１８３６名から１７８８名に改め、新たに機能別団員１５０名を設立した。これにより消防団員定数１９３８名となる。
	１２月　９日	岐阜ヤナセ株式会社より消防ポンプ自動車を購入し、山口分団第２部に配置。
平成２２年	３月１６日	株式会社ウスイ消防より水槽付消防ポンプ自動車１台購入し、北消防署へ配置。
	３月２４日	岐阜ヤナセ株式会社より消防ポンプ自動車を購入し、阿木分団第３部に配置。
	４月　１日	消防長松葉和正退任により、２７代目消防長に加藤正和就任、消防次長今井輝幸退任により内藤龍志が就任、中消防署長に原賢、北消防署長に早川一敏、西消防署長に長瀬源治がそれぞれ就任する。
	４月　１日	４名新規採用、消防職員実員数１１２名となる。
	１２月２８日	中津川市茄子川２８２－８地内に坂本分団第２部下洗井コミュニティ消防センター１棟を新築する。
平成２３年	２月１８日	株式会社富士より消防ポンプ自動車を購入し山口分団第３部に配置。
	４月　１日	西消防署長長瀬源治退任により、西消防署長に西尾年正が就任。
	４月　１日	２名新規採用、消防職員実員数１１２名となる。
	８月２６日	岐阜トヨタ自動車株式会社より高規格救急車１台を購入し、北消防署へ配置。
	１１月　９日	平成２３年３月１１日に発生した東日本震災の消防応援活動により、総務大臣から感謝状を授与された。
	１２月２２日	中津川市瀬戸 2262 番地内に苗木分団第３部瀬戸消防コミュニティーセンターを１棟新築する。
平成２４年	１月１９日	株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車を購入し坂本分団第３部・落合分団第３部へ配置。
	４月　１日	消防長加藤正和退任により、２８代目消防長に原賢就任、消防次長内藤龍志退任により早川一敏が就任、中消防署長に早川一敏、北消防署長に中島孝彦がそれぞれ就任する。
	４月　１日	３名新規採用、消防職員実員数１１２名となる。
	１２月１７日	株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車を購入し福岡分団第２分団・蛭川分団第１部へ配置。
	１２月２５日	岐阜トヨタ自動車株式会社より高規格救急車１台を購入し、中消防署へ配置。
平成２５年	２月１５日	消防救急デジタル無線工事（２年間）。
	３月１８日	株式会社ウスイ消防より小型動力ポンプ付水槽車（水 10,000 ﾘｯﾄﾙ）を購入し、中消防署へ配置。

	３月２８日	中津川市川上268-10番地に川上分団第１部消防器具庫を新築する。
	３月２８日	高機能消防指令システム更新整備工事（２年間）。
	４月　１日	消防長原賢退任により、２９代目消防長に杉本高雄就任、消防次長早川一敏退任により金子肇が就任、中消防署長に林一雄、西消防署長に大地弘志がそれぞれ就任する。
	４月　１日	５名新規採用、消防職員実員数１１４名となる。
	１２月１３日	株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車を購入し、福岡分団第３分団へ配置。
平成２６年	４月　１日	消防長杉本高雄退任により、３０代目消防長に中島孝彦就任、消防次長金子肇退任により林一雄が就任、中消防署長に大地弘志、西消防署長に大山龍男、北消防署長に原文男がそれぞれ就任する。
	４月　１日	４名新規採用、消防職員実員数１１１名となる。
	４月　１日	中津川市消防団長に小倉主税就任。
	１１月１４日	株式会社ウスイ消防より屈折はしご付消防ポンプ自動車を購入し、中消防署へ配置。
	１２月１８日	株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車を購入し、神坂分団第２部、坂本分団第２部、加子母分団第１部へ配置。
平成２７年	４月　１日	消防長中島孝彦退任により、３１代目消防長に林一雄就任、消防次長に大地弘志が就任、中消防署長に原文男、西消防署長に松葉茂幸、北消防署長に大山龍男がそれぞれ就任する。
	４月　１日	４名新規採用、消防職員実員数１１３名となる。
	４月　１日	中津川市消防本部救助隊を発足。
	１１月２０日	株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車を購入し、山口分団第１部、福岡分団第３部へ配置。
	１２月１０日	中津川市付知町１１０１０－１番地に付知分団第４部消防器具庫を新築する。
平成２８年	３月１８日	有限会社伊藤商会より連絡車を購入し、中消防署坂下分署へ配置。
	３月２２日	岐阜トヨタ自動車株式会社より高規格救急車を購入し、西消防署へ配置。
	３月２８日	岐阜ヤナセ株式会社より指揮車を購入し、中消防署へ配置。
	４月　１日	消防長林一雄退任により、３２代目消防長に大地弘志就任、消防次長に松葉茂幸が就任、中消防署長に伊藤民雄、西消防署長に井口義章、北消防署長に西尾昌美がそれぞれ就任する。
	４月　１日	６名新規採用、消防職員実員数１１４名となる。
	８月　７日	第６５回岐阜県消防操法大会が多治見市で行なわれ、当市消防団は、優勝の栄誉を得た。
	８月２４日	第４５回全国消防救助技術大会（松山市）ロープ応用登はんに

２名出場。

１１月２９日　株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車を購入し、坂本分団第２部へ配置。

平成２９年　３月３０日　株式会社ウスイ消防より救助工作車を購入し、北消防署へ配置。

４月　１日　消防長大地弘志退任により、３３代目消防長に松葉茂幸就任、消防次長に西尾昌美、中消防署長に安江鉱次、西消防署長に坂巻智司、北消防署長に三好守行がそれぞれ就任する。

４月　１日　３名新規採用、消防職員実員数１１５名となる

６月　９日　東美濃農業協同組合より普通ワゴン車１台の寄贈を受け、団本部へ配置。

１２月１４日　株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車を購入し、中津分団第３部へ配置。

１２月１４日　有限会社伊東モータースより小型動力ポンプ積載車２台を購入し、坂本分団第２部、川上分団第１部へ配置。

平成３０年　２月２０日　岐阜日産自動車株式会社より高規格救急車を２台購入し、坂下分署、加子母分署へ配置。

４月　１日　西消防署長坂巻智司退任より、西消防署長に安江鉱次が就任中消防署長に今井達郎就任。

４月　１日　２名新規採用、消防職員実数１１５名。

８月　５日　第６７回岐阜県消防操法大会が郡上市で行なわれ、当市消防団は準優勝の栄誉を得た。

１２月　１日　株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車を購入し、苗木分団第１部へ配置。

１２月　１日　有限会社伊東モータースより小型動力ポンプ積載車を購入し、中津分団第３部へ配置。

１２月２２日　中津川市福岡字鷹ノ巣４２６１地内に福岡分団第５部消防器具庫を新築。

１２月２５日　岐阜日産自動車株式会社より高規格救急車を購入し、蛭川分署へ配置。

平成３１年　４月　１日　消防長松葉茂幸退任により、３４代目消防長に今井達郎就任、消防次長兼中署長に河合丈夫、消防次長兼西署長に小川裕史、消防次長兼北署長に曽我明彦がそれぞれ就任する。

４月　１日　４名新規採用、消防職員実数１１４名。

４月１５日　高機能指令システム及び消防デジタル無線設備の機器更新（２年間）。

令和　元年　５月　１日　新元号平成から令和へ。

８月２５日　第４８回全国消防救助技術大会（岡山市）ロープ応用登はんに２名出場。

令和　２年　３月１９日　中津川市山口３１９番地に山口分団１部消防器具庫を新築

	４月　１日	消防長今井達郎退任により、３５代目消防長に河合丈夫就任、消防次長兼中署長に大橋薫、消防次長兼西署長に小川裕史、消防次長兼北署長に曽我明彦がそれぞれ就任する。
	４月　１日	５名新規採用　消防職員実数１１７名。
令和　３年	３月２４日	消防庁より重機及び重機搬送車を貸与　中消防署へ配置。
	３月２５日	株式会社ウスイ消防より救助工作車を購入し、中消防署へ配置。
	４月　１日	消防次長に佐藤貞幸、中署長兼坂下分署長に吉村和泰、西署長兼蛭川分署長に小川裕史、北署長兼加子母分署長に吉村敦支がそれぞれ就任する。
	４月　１日	６名新規採用　消防職員実員数１１６名。
	１０月１１日	北署輸送車　寄付を受け北消防署へ配置。
	１２月２７日	ユニオン電装株式会社より坂下分団分団本部へ指令車交付 坂下分団分団本部へ配置。
令和　４年	１月１８日	日本消防協会より消防団本部へ団本部広報車交付　中消防署へ配置。
	２月２１日	令和３年７月３日に発生した静岡県熱海市土石流災害の消防応援活動により、消防庁長官から感謝状を授与された。
	２月２１日	株式会社オートライフヨシムラより救急支援車を購入し、中消防署へ配置。
	３月１４日	有限会社伊東モータースより消防団積載車２台購入し、加子母分団第２部、福岡分団第５部へ配置。
	４月　１日	消防長河合丈夫退任により、３６代目消防長に佐藤貞幸就任、消防次長に小川裕史、中署長兼坂下分署長に吉村和泰、西署長兼蛭川分署長に早川豊宏、北署長兼加子母分署長に熊澤隆がそれぞれ就任する。
	４月　１日	中津川市消防団長に桂川邦俊就任。
令和　５年	２月２８日	有限会社伊東モータースより消防団積載車を購入し、川上分団第２部へ配置。
	３月　８日	岐阜トヨタ自動車より高規格救急車を購入し、中消防署へ配置。
	４月　１日	消防次長に宮嶋保彦、中署長兼坂下分署長に西尾嘉高がそれぞれ就任する。
	４月　１日	５名新規採用　消防職員実員数１１７名。
	６月１４日	中津貨物自動車株式会社より普通ワゴン車の寄贈を受け中消防署へ配置。
	８月　６日	第７２回岐阜県消防操法大会が各務原市で行なわれ、当市消防団は準優勝の栄誉を得た。
	１０月　２日	株式会社ウスイ消防より水槽付き消防ポンプ自動車を購入し西消防署へ配置。

令和　６年	１月１３日	中津川市消防団重機分団を発足。
	２月２８日	株式会社ウスイ消防より消防団ポンプ車を２台購入し、加子母分団本部、蛭川分団第３部へ配置。
	２月２９日	有限会社伊東モータースより消防団積載車を購入し、中津分団第４部へ配置。 有限会社伊東モータースより消防団軽積載車を購入し、落合分団第２部へ配置。
	４月　１日	消防長佐藤貞幸退任により、３７代目消防長に宮嶋保彦就任、消防次長に西尾達也、中署長兼坂下分署長に小川歩、西署長兼蛭川分署長に林秀雄、北署長兼加子母分署長に吉村孝紀がそれぞれ就任する。
	４月　１日	６名新規採用　消防職員実員数１１８名。
	５月２３日	令和６年１月１日に発生した能登半島地震の消防応援活動により、消防庁長官から感謝状を授与された。
	８月１３日	おいでん祭に際して、消防団みこしを更新。
	８月２９日	東濃５市消防指令センター建設工事安全祈願祭を挙行。

恵北消防組合のあゆみ

昭和５７年	４月　１日	坂下町、川上村、加子母村、付知町及び福岡町を区域とする恵北消防組合が設立。大野秋夫が初代消防長に就任し、消防職員３２名で構成。
	６月	恵北消防組合業務開始。消防長大野秋夫辞任により、２代目消防長に田口藤助就任。
	８月	日本消防協会より救急車の寄贈を受け、恵北消防署へ配備。
	１１月	恵北消防組合消防本部・消防署並びに坂下、加子母分署庁舎建設。水槽付消防ポンプ自動車２台購入、消防署、坂下分署へ配備。
昭和５８年１２月		日産自動車より救急車の寄贈を受け、加子母分署へ配備。水槽付消防ポンプ自動車１台購入、加子母分署へ配備。
昭和６１年　２月		日本損害保険協会より救急車の寄贈を受け、坂下分署へ配備。
昭和６２年　４月　１日		消防長田口藤助退任により、３代目消防長に鎌田昇就任。
平成　３年１０月		消防組合設立１０周年記念式典。
平成　４年　１月		救急車を更新し、恵北消防署へ配備。
	４月　１日	消防長鎌田昇退任により、４代目消防長に安江洋平就任。
平成　５年１１月		救助工作車、消防ポンプ自動車購入し、恵北消防署へ配備。
平成　６年１１月		救急車を更新し、加子母分署へ配備。
平成　９年　４月　１日		消防長安江洋平退任により、５代目消防長に井後周久就任。 機構改革により消防本部に課制（総務課、予防課、警防課）

導入。
平成１４年　４月　１日　消防長井後周久退任により、６代目消防長に原洋甫就任。
平成１７年　２月１２日　恵北消防組合解散式。
平成１７年　２月１３日　中津川市との合併により、中津川市消防本部へ編入する。

山口村消防のあゆみ

昭和２２年　４月３０日　山口村消防団が１２８名の編成をもって発足。
昭和３３年１０月　山口村消防団が３分団１７５名をもって再編成。
平成１７年　２月　市町村合併により中津川市山口消防団に改称。
平成２０年　４月　中津川市消防団山口分団と改称。

坂下町消防のあゆみ

明治２３年　３月　坂下町私設消防組を約２０名、鳶口若干配備にて組織。
明治３５年　坂下町公設消防組認可
昭和　４年１２月　上野区内の消防施設を合併し、坂下町消防組と改称。
昭和１１年　１月　坂下少年消防隊を設置。
昭和１２年　３月　坂下町消防団本部詰所を建築。
昭和１４年　４月　坂下町消防組解組により坂下町警防団を設立。
昭和２２年１０月　警防団解散により坂下町消防団として発足。
昭和３１年　９月　消防ポンプ自動車１台購入、第１分団へ配備。
昭和３４年１２月　３日　坂下町消防団７０周年記念式典。
昭和４１年　４月　１日　坂下町婦人防火クラブを発足。
昭和４３年　７月３１日　第２分団ポンプ小屋建設。
９月　３日　森田式中型消防ポンプ自動車１台を購入、第２分団へ配備。
昭和４５年　３月２２日　坂下町消防団創立８０周年式典。
９月２７日　中型ポンプ自動車１台購入、第６分団へ配備。
昭和４６年　８月１５日　中型ポンプ自動車１台購入、第１分団へ配備。
昭和４８年　９月１７日　第７分団ポンプ車庫建設(現第４分団２部)。
１１月１８日　第６分団詰所建設(現第２分団２部)。
昭和４９年　９月　８日　第１分団車庫詰所建設(現第１分団１部)。
昭和５０年１１月３０日　第４分団車庫建設(現第３分団２部)。
昭和５２年　３月２８日　７分団から４分団８部制とし、再編成。
昭和５３年　８月３１日　第１分団第２部車庫建設。
昭和５５年　８月１７日　第４分団第１部詰所建設。
昭和６３年　２月１３日　第２分団第２部詰所建設。
平成　３年　１月１３日　第３分団第１部詰所建設。

	１月１９日	第４分団第２部詰所建設。
平成　６年	１月２６日	第１分団第１部詰所建設。
平成　８年	１月　６日	消防ポンプ自動車購入、第２分団第１部に配備。
平成　９年	１月　６日	消防ポンプ自動車購入、第２分団第２部に配備。
平成１０年	１月　６日	消防ポンプ自動車購入、第１分団第１部に配備。
平成１１年	１月　６日	消防ポンプ自動車購入、本部に配備。
平成１７年	２月	市町村合併により中津川市坂下消防団に改称。
平成２０年	４月	中津川市消防団坂下分団と改称。

川上村消防のあゆみ

大正　６年	２月１１日	川上村私設消防組を１２０名にて組織。
大正１１年	７月１３日	４組制、１４０名をもって再編成。
昭和　８年	８月２２日	川上村公設消防組認可。４部制１１２名。
昭和１４年	４月　１日	川上村消防組を廃して、川上村警防団を創立。
昭和２２年	１２月　５日	川上村警防団を改廃して、川上村消防団を創立。消防団長に原鏡一が就任。
昭和２７年	４月　１日	消防団長原鏡一退任により、東野守が就任。
昭和３１年	３月１１日	消防団長東野守辞任により、原六郎が就任。
昭和３５年	３月１２日	消防団長原六郎辞任により、原逸平が就任。
昭和４１年	３月１５日	消防団長原逸平辞任により、粥川武美が就任。
昭和４３年	９月　９日	消防ポンプ自動車を購入。
昭和５１年	４月　１日	消防団長粥川武美退任により、鎌田昇が就任。
昭和５２年	９月１０日	消防器具庫２棟建設。（１分団　森平、２分団　奥屋）
平成１７年	２月	市町村合併により中津川市川上消防団に改称
平成２０年	４月	中津川市消防団川上分団と改称

加子母村消防のあゆみ

大正１２年	５月１０日	加子母村消防組が結成。初代組頭　田口幸六 組員１６４名・３部制で組織
大正１４年	４月　１日	消防応援団体として加子母村応援隊が発足。隊員７０名
昭和　４年	３月３１日	２代組頭　丹羽清一郎　就任
昭和１１年	４月２９日	３・４・７組の詰所を建設
昭和１２年	４月　１日	加子母村応援隊を加子母村警防隊と改称 少年消防隊が発足
昭和１４年	４月　１日	加子母村消防組を加子母村警防団と改称。 初代警防団長　河村信太郎　就任

昭和１８年　４月　１日　　２代警防団長　安江鑒蔵　就任。
昭和２２年　７月２８日　　加子母村消防団が発足　初代団長に田口整吾が就任。
　　３分団・新団員１２０名で編成。
昭和２６年　３月２５日　　２・６・９班に格納庫を建設。
　　４月　１日　　２代目団長に安江己郎が就任。
昭和２７年　８月３０日　　第１班詰所１棟新築完成。
昭和２８年１０月３１日　　第２班詰所１棟新築完成。
昭和２９年　３月　１日　　自動車ポンプを購入、第２分団第６班へ配備。
昭和３０年　５月１８日　　消防ポンプ自動車（ﾄﾖﾀ 90PS ﾎﾟﾝﾌﾟ日本機会）１台購入。
　　６月３０日　　第１分団第１班、第２分団第４班　器具庫各１棟新築完成。
　　１２月２７日　　第１班、第１０班　小型動力ポンプ庫を新築。
昭和３２年　２月１１日　　日本消防協会旗（表彰旗）が授与された。
昭和３４年　２月　１日　　３代目団長に安江銕美が就任。
　　５月　８日　　第８回岐阜県消防操法大会（高山市）に於いて、自動車ポンプの部で第４位、可搬ポンプの部で３位に入賞。
昭和３５年　４月２９日　　第９回岐阜県消防操法大会（岐阜市）に於いて、可搬ポンプの部で３位に入賞。
昭和３６年１２月　１日　　岐阜県知事より表彰・知事旗授与。
昭和３８年　８月１１日　　村史稀な集中豪雨の大災害発生、翌１２日まで終日全団員防災に活躍。
　　１２月　１日　　加子母村婦人消防隊を結成、初代隊長　岩木いちへ　就任
　　１２月２０日　　団員の定数を改正、定員１４０人（２０人増）となる。
昭和４０年　２月　１日　　４代目団長に田口藤助が就任。
　　３月　３日　　消防庁長官より表彰・竿頭綬を授与。
　　８月２０日　　第１分団第２班に消防ポンプ自動車車庫が完成。
　　８月３０日　　消防ポンプ自動車（ｲｽｽﾞ 140PS、ﾎﾟﾝﾌﾟﾓﾘﾀ式）１台購入、第２分団に配置、既設の消防ポンプ自動車は第１分団へ配置
昭和４１年　３月　３日　　消防庁長官より、表彰旗を授与された。
　　７月２１日　　消防団員の定員を１４５名（増員５名）とした。
昭和４３年　４月　１日　　第２分団・第５班の消防詰所完成。
　　７月１９日　　消防ポンプ自動車（ﾆｯｻﾝ 125PS、ﾎﾟﾝﾌﾟﾓﾘﾀ式）１台購入、第３分団に配置。
　　８月１３日　　岐阜県知事より、知事竿頭綬を授与。
昭和４４年　４月２７日　　第１８回岐阜県消防操法大会（吉城郡神岡町）に於いて、第５位に入賞。
昭和４５年　４月２９日　　第１９回岐阜県消防操法大会（揖斐郡揖斐川町）に於いて、準優勝（第５班）、第３位（第４班）にそれぞれ入賞。
　　８月　６日　　消防ポンプ自動車（ﾄﾖﾀ 115PS、ﾎﾟﾝﾌﾟﾓﾘﾀ式）１台購入。
昭和４６年　９月　６日　　未曽有の豪雨が北部地区を襲い大災害発生（昭和４６年集中豪雨災害）９日まで消防団員出動。

昭和４７年　４月２９日　第２０回岐阜県消防操法大会（本巣郡穂積町）に於いて、小型ポンプ操法の部で優勝。
５月２６日　消防団員の定員を１５０名（増員５名）とした。
昭和４９年　８月　４日　第２３回岐阜県消防操法大会（大野郡荘川村）に於いて、小型ポンプ操法の部で準優勝。
昭和５０年　８月　３日　第２４回岐阜県消防操法大会（不破郡垂井町）に於いて、ポンプ車操法の部で優勝。
８月１８日　日本船舶振興会より､小型動力ポンプ積載車(ﾄﾖﾀｽﾀｳﾄ2,000CC特別艤装車）１台寄贈。本部班へ配置。
昭和５１年　８月　１日　第２５回岐阜県消防操法大会（恵那市）に於いて、小型ポンプ操法の部で４位に入賞。
１０月１７日　第５回全国消防操法大会（東京消防学校）に於いて、自動車ポンプの部で準優勝した。
昭和５３年　８月　６日　第２７回岐阜県消防操法大会（加茂郡坂祝町）に於いて、小型ポンプ操法の部で３位に入賞。
昭和５４年　４月　１日　消防団員の定員を１５５名（増員５名）とした。
消防音楽隊（１５名編成）が発足。
昭和５５年　２月１２日　日本消防協会長より、特別表彰まといを受彰した。
８月　３日　第２９回岐阜県消防操法大会（揖斐郡谷汲村）に於いて、小型ポンプ操法の部で準優勝。
昭和５６年　８月　２日　第３０回岐阜県消防操法大会（恵那郡山岡町）に於いて、ポンプ自動車操法の部で６位に入賞。
９月　１日　消防ポンプ自動車(ﾄﾖﾀ 60V、ﾎﾟﾝﾌﾟﾓﾘﾀ式)BS-1A2 級１台購入。第２分団第６班へ配置。
昭和５７年　４月　１日　５代目団長に今井巳智夫が就任。
８月　８日　第３１回岐阜県消防操法大会（羽島市）に於いて、小型ポンプ操法の部で９位に入賞。
昭和５９年　４月　１日　６代目団長に佐藤文男が就任。
８月　５日　第３３回岐阜県消防操法大会（古川町）に於いて、小型ポンプ操法の部で準優勝
昭和６１年　８月　３日　第３５回岐阜県消防操法大会（福岡町）に於いて、小型ポンプ操法の部で７位に入賞。
昭和６２年１２月１６日　消防ポンプ自動車(ﾄﾖﾀ M-FJ62V、ﾎﾟﾝﾌﾟﾓﾘﾀ式)BD-Ⅰ型 4WD １台購入。第３分団第９班へ配置。（国庫補助事業）
昭和６３年　８月　７日　第３７回岐阜県消防操法大会（美濃市）に於いて、小型ポンプ操法の部で３位に入賞。
平成　元年　７月　１日　消防ポンプ自動車(ﾄﾖﾀ M-FJ62V、ﾎﾟﾝﾌﾟﾓﾘﾀ式)BD-Ⅰ型 4WD １台購入。第１分団第２班へ配置。（辺地対策事業）
９月　６日　第５回全国婦人消防操法大会（横浜市）に於いて、加子母村婦人消防隊が優良賞を受賞。

平成　２年　８月　１日　　(財)日本消防協会より、消防指令広報車が寄贈。
　　８月　５日　　第３９回岐阜県消防操法大会(安八町)に於いて、小型ポンプ操法の部で４位に入賞。
平成　５年　２月　１日　　第３分団第１０班にコミュニティ消防センターを建設。（防災まちづくり事業）
平成　６年　２月　１日　　第２分団第７班にコミュニティ消防センターを建設。（防災まちづくり事業）
　　１１月　１日　　岐阜県知事より、特別表彰旗が綬与された。
平成　７年　２月　１日　　第１分団第１班・第２分団第４班・第３分団第９班にコミュニティ消防センターを建設。
平成　８年　８月　４日　　第４５回岐阜県消防操法大会(中津川市)に於いて、小型ポンプ操法の部で６位に入賞。
　　１２月２３日　　消防ポンプ自動車（ﾄﾖﾀ KC－BU172 4100KW）１台購入、第２分団第６班へ配置。（防災まちづくり事業）
平成１０年　２月　１日　　第２分団第４班にコミュニティ消防センターを建設。（防災まちづくり事業）
平成１６年１２月１０日　　ポンプ自動車（CD-1・低床４ WD）１台を購入し、第２分団第６班へ配備。（補助事業）
平成１７年　２月１３日　　中津川市との合併により、加子母村消防団から中津川市加子母消防団に改称。
平成２０年　３月３０日　　加子母消防団閉団式（団旗納め式）。
　　４月　１日　　中津川市消防団加子母分団と改称。

付知町消防のあゆみ

明治３１年　４月　　岐阜県告示第１６０号をもって付知消防組が認可される。
　　組員任命　組頭　熊谷鉄太郎、小頭６名、消防手１６２名
　　ポンプ３台
明治３６年　５月　　組頭　坪井誠爾就任。
明治４４年　５月　　組頭　加地喜兵衛就任。
大正　２年　５月　　一の宮地内で大火発生　全焼家屋３２棟、半焼家屋６棟、半壊１棟という大惨事となる。
大正１４年　５月　　組頭　早川三代蔵就任。
　　１２月　　第一部詰所新築。
大正１５年　５月　　第３部詰所新築。
昭和　７年１２月　　組頭　伊藤善三郎就任。
昭和　９年１２月　　組頭　熊谷常勝就任。
昭和１０年１０月　　ガソリンポンプ車２台購入　第１部、第２部に配置。
　　第１部、第２部にポンプ車車庫２棟新築。

昭和１１年　５月　岐阜県知事表彰、金馬簾受賞披露式を行う。
　　９月　第３部ガソリンポンプ車庫新築。
　　１０月　ガソリンポンプ購入　第３部に配置。
昭和１３年　５月　組頭　伊藤公道就任。
昭和１４年　４月　付知町警防団設置。
　　警防団長　早川安市　総員３００名　３分団で編成。
　　第１分団１０３名　第２分団１００名　第３分団８１名。
昭和２２年　９月　付知警防団を解散し、付知消防団発足。
　　団長　片田良雄、団員数　２００名。第１、第２、第３分団とし、
　　手びきガソリンポンプ班、腕用ポンプ、階梯班をそれぞれ編成。
昭和２６年　７月　第３分団ポンプ庫２棟新築。
昭和２７年　１月　団長　坪井末彦就任。
昭和２８年１１月　消防ポンプ自動車１台購入　役場に配置。
　　１２月　役場前消防車庫新築。
　　岐阜県消防協会総裁賞　竿頭綬受賞。
昭和２９年　７月　岐阜県知事表彰、優良消防団金馬簾表彰に係る査閲を受ける。
　　８月　県下３３団の内首席として金馬簾表彰を受賞。
昭和３０年１０月　第１分団小型動力ポンプ庫新築。
昭和３１年　２月　日本消防協会優良消防団として表彰旗を受賞する。
　　１２月　小型動力ポンプ庫２棟新築。
昭和３２年　４月　団長　原友三郎就任。
昭和３３年１１月　岐阜県知事表彰、知事旗表彰の査閲を県査定官より受ける。
昭和３６年　４月　団長　三島定美就任。
昭和４０年　１月　消防ポンプ自動車(ﾄﾖﾀﾗﾝﾄﾞｸﾙｰｻﾞｰ　森田ポンプＡ２級)１台購入。
　　第２分団に配備。
　　４月　団長　伊藤正久　就任。
　　１１月　付知町婦人防火クラブ結成。
昭和４１年　４月　消防庁長官表彰竿頭綬受賞伝達を受ける。
昭和４２年１２月　消防ポンプ自動車(Ａ２級)第１分団に配備。
　　第１分団に消防ポンプ自動車車庫完成。
昭和４５年　３月　消防庁長官表彰、長官旗受賞。
昭和４６年１０月　知事旗竿頭綬受賞。
昭和４８年　８月　消防ポンプ自動車(ﾄﾖﾀﾗﾝﾄﾞｸﾙｰｻﾞｰ　１２５馬力)第２分団に配備。
昭和４９年１０月　付知町消防友の会発足。
昭和５０年　４月　団長　伊藤博郎　就任　　恵北消防協会　発足。
昭和５１年　９月　第３分団積載車車庫完成。
　　１２月　第４分団詰所完成。
昭和５２年１２月　消防ポンプ自動車(ﾄﾖﾀﾗﾝﾄﾞｸﾙｰｻﾞｰ　ＢＳ１型)１台購入。
　　第４分団に配備。
昭和５３年１２月　第３分団小型動力ポンプ積載車車庫完成。

昭和５４年　４月　団長　三尾吉示　就任。
　　１２月　第４分団小型動力ポンプ積載車車庫完成。
昭和５５年１１月　第１回岐阜県消防ラッパ競練会に東濃地区代表として出場し、敢闘賞を受賞。
　　１２月　小型動力ポンプ積載車車庫を第２分団に２棟、第３分団に１棟、第４分団に１棟完成。
昭和５６年　５月　東清運輸から車両(ﾆｯｻﾝﾌﾞﾙｰﾊﾞｰﾄﾞ1600cc)の寄贈を受け本部指令車として配備。
　　６月　広屋林私設消防団発足　組織員６２名。
　　８月　消防ポンプ自動車(ﾄﾖﾀﾗﾝﾄﾞｸﾙｰｻﾞｰ4000cc)１台購入、第３分団に配備。
昭和５８年　８月　消防ポンプ自動車（ﾄﾖﾀ　ＢＳ１型　4500cc）１台購入、第４分団に配備。
昭和５９年　４月　団長　伊藤幸雄　就任。
昭和６３年　４月　団長　原米彦　就任。
平成　元年　２月　日本消防協会から竿頭綬受領。
平成　４年　４月　団長　小松利彦　就任。
　　７月　第４回岐阜県消防団員意見発表会で付知町消防団員３位入賞。
平成　６年１２月　上倉屋地内で建物火災　団員１名負傷。
平成　８年　４月　団長　熊谷和朗　就任。
平成１１年１２月　消防ポンプ自動車１台購入　第２自動車に配備。
平成１２年　４月　団長　吉村象作　就任。
平成１７年　１月　消防ポンプ自動車２台購入。
　　２月　市町村合併に伴い「中津川市付知消防団」と改称。
平成１８年１１月　岐阜県特別表彰旗授与。
平成２０年　３月　付知消防団閉団式　団長　吉村象作　退任。
　　４月　中津川市消防団付知分団と改称。

福岡町消防のあゆみ

明治４１年　４月　福岡消防組結成挙行（組員１１３名）組頭　安保豊次郎。
大正　５年　３月　下野消防組結成挙行（組員１１７名）組頭　西尾栄次郎。
大正１０年１１月　田瀬消防組結成挙行（組員　９４名）組頭　伊藤彦十郎。
大正１２年　４月　高山消防組結成挙行（組員１１２名）組頭　吉村勘六。
昭和　４年　３月　高山小学校児童消防隊結成。
昭和　８年１０月　福岡少年消防隊発足。
昭和１１年　８月　消防組織変更が認可され、４消防組を統一合併し福岡村消防組と称す。定員６１８名、本部と９部制で組織。
　　９月　福岡村防護団の結成。
　　１０月　福岡村消防組発表式挙行。消防組頭　原権一就任。

昭和１２年　３月　福岡村消防組の組織変更許可申請により、９部制組織を本部以下４部制に改組し、定員を３４０名とする。
昭和１４年　４月　警防団令により消防組を解散、福岡村警防団の結団式。
警防団長に原権一就任。
４部制を４分団とし、定員を３００名とする。
昭和１５年　５月　警防団長に林義一就任。
昭和１９年　５月　警防団長に山田喜代太郎就任。
昭和２０年　１月　福岡村警防団員数を２３０名とする。
昭和２１年　２月　福岡村警防団員数を３００名とする。
３月　警防団長に原幸平就任。
昭和２２年　７月　福岡村消防団設置条例制定。消防団員数を３００名とする。
８月　消防団給与条例制定。
消防団員服務規律及び懲戒条例制定。
９月　消防団令により警防団を消防団に改組。
消防団結団式。団長に伊藤房雄就任。
９月　福岡村消防委員会設置。
昭和２３年　４月　福岡村消防団員数を２００名とする。
昭和２４年　１月　福岡村消防条例制定。
１２月　消防団長に田口大剛就任。
昭和２６年　８月　福岡村消防本部詰所建設。
昭和２８年１０月　消防団長に大野秋夫就任。
昭和３０年１２月　消防団長に吉村恒雄就任。
昭和３２年　３月　福岡村消防団員公務災害補償条例制定。
１２月　消防団長に伊藤勝郎就任。
昭和３３年１１月　福岡村消防団条例制定（全部改正）　団員数２６０名とする。
昭和３６年１２月　中型消防ポンプ自動車購入　福岡分団配属。
昭和３７年　２月　福岡村火災予防条例制定（全部改正）。
３月　消防団長に林龍一就任。
昭和３９年　３月　少年消防クラブ岐阜県知事表彰。
消防団長に今井勇二就任。
昭和４０年　９月　県防災連合演習実施　福岡地内。
昭和４１年　３月　福岡村消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例制定。消防団長に吉村滋気祺就任。
４月　町制施行により福岡町消防団と改称する。
町婦人防火クラブ結成。
昭和４３年　３月　消防団長に深谷昭二就任。
７月　福岡町消防団設置等に関する条例制定。
福岡町消防団規則制定
昭和４４年　３月　高山若山地区湯の島ラジウム温泉全焼　死者１名。
９月　福岡町消防賞じゅつ金条例制定。

福岡町消防団員公務災害補償条例制定。
昭和４５年　４月　役場、農協消防を設置。団員数を２１５名とする。
１２月　中型消防ポンプ自動車２台購入　田瀬・高山分団配属。
昭和４６年　３月　少年消防クラブ岐阜県表彰。
昭和４７年　３月　消防団長に長瀬規男就任。
９月　中型消防ポンプ自動車購入　下野分団配属。
昭和４９年　４月　団員数を２２０名とする。
７月　恵北一市六町村知事旗受賞記念大会（福岡町）。
９月　中型消防ポンプ自動車購入　福岡分団配属。
昭和５１年　３月　消防団長に糸魚川柏三就任。
昭和５４年　１月　福岡中学校少年消防クラブ表彰（東京）。
８月　中上消防車庫新設。
昭和５５年　２月　消防音楽隊披露式。
４月　小型動力ポンプ購入　田瀬分団大萱配属。
消防団長に渡辺修美就任。
昭和５６年１０月　日本消防協会から小型動力ポンプ積載車寄贈　本部分団配属。
昭和５７年　３月　木積沢消防車庫新設。
１０月　恵北消防組合開設。
１２月　田瀬分団詰所新設。福岡分団川西詰所新設。
昭和５８年　４月　消防音楽隊エル・ジェ結成。
昭和５９年　４月　消防庁長官竿頭綬受賞披露式。
８月　少年消防クラブ優良クラブ表彰（第１０回全国大会）。
昭和６０年　９月　消防ポンプ自動車更新　第１分団配属。
１０月　新田器具庫新築。
昭和６１年　４月　消防団長に小林優就任。
８月　第３５回岐阜県消防操法大会開催（福岡中学校グランド）出場隊（本部分団）準優勝。
昭和６１年　９月　消防ポンプ自動車更新　第４分団配属。
昭和６２年　４月　東清運輸より団本部に指令車寄贈。
昭和６３年　９月　消防ポンプ自動車更新　第２分団配属。
１０月　婦人消防隊優良婦人防火クラブが日本防火協会より表彰。
平成　元年　８月　第３８回岐阜県消防操法大会出場（高山市）８位入賞。
平成　２年１０月　消防ポンプ自動車更新　第３分団配属。
平成　３年　４月　消防団長に深谷勲就任。
８月　第４０回岐阜県消防操法大会出場（多治見市）４位入賞。
平成　４年　２月　婦人消防隊日消表彰旗受賞。
３月　防災行政無線車載型を全車両１３台に配備。
平成　６年　３月　消防庁長官表彰旗授与。
平成　７年　３月　下野コミュニティ消防センター新築。
平成　８年　９月　高山コミュニティ消防センター新築。

	１０月	第１２回全国婦人消防操法大会（横浜市）にて福岡婦人消防隊が岐阜県代表として出場　五位入賞。
平成　９年	４月	消防団長に今井則也就任。
平成１１年	１１月	岐阜県知事竿頭綬を授与。
平成１３年	１２月	消防指令車更新　団本部へ配属。
平成１４年	８月	第５１回岐阜県消防操法大会出場（本巣町）７位入賞。
平成１５年	３月	ＣＤ型消防ポンプ自動車２台購入　第１分団、第４分団へ配属。
	１１月	自治体消防５５周年記念大会（東京）にラッパ隊員が中津川・恵北連合ラッパ隊として参加。
平成１６年	８月	第５３回岐阜県消防操法大会出場（下呂市）５位入賞。
	１２月	岐阜県知事特別表彰旗を授与。
平成１７年	２月	市町村合併により中津川市福岡消防団に改称。
平成１８年	３月	第３分団（川東）消防器具庫新築。
	４月	消防団長に大山安彦就任。
平成２０年	３月	福岡消防団閉団式。
	４月	中津川市消防団福岡分団と改称。

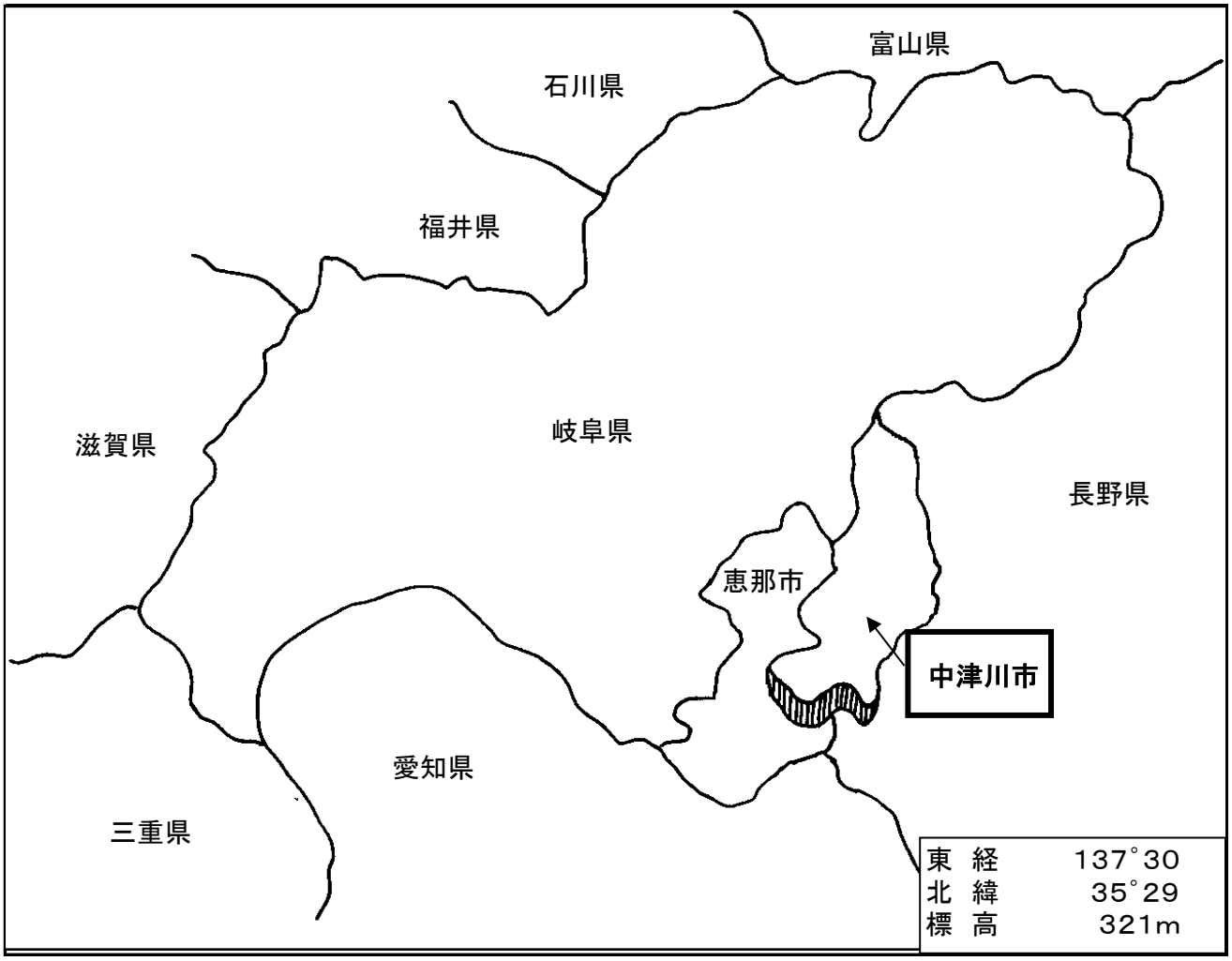
蛭川村消防のあゆみ

大正　３年	９月２９日	蛭川村私設消防組結成式。
大正　５年	５月　３日	蛭川村公設消防組認可。
昭和１４年	４月１０日	消防組解散式並びに警防団結成式（定員２４２人　３分団制）。
昭和２２年	９月　１日	消防団と改組（定員２２０人　４分団制）。
昭和２３年	１月１８日	小型自動車ポンプ購入。
昭和２６年	１１月２４日	大型自動車ポンプ購入。
昭和２７年	４月　１日	第１分団消防詰所建設（中切）。
昭和２９年	４月　１日	消防詰所建設（柏ヶ根）。
昭和３０年	９月　１日	消防詰所建設（一之瀬）。
昭和３２年	５月　４日	消防詰所建設（下沢・奥渡）。
昭和３３年	１２月１５日	消防詰所建設（和田）。
	１２月２０日	消防詰所建設（棚田・一色）。
昭和３４年	４月２０日	消防詰所建設（奈良井）。
	９月２０日	消防詰所建設（町切）。
昭和３７年	１月１７日	消防ポンプ自動車購入（町切）。
	８月２０日	消防詰所建設（鳩吹）。
昭和３９年	４月２３日	蛭川村消防団条例改正し定員２００名から１８０名となる。
昭和４１年	１０月１４日	消防詰所移転（鳩吹）。
昭和４８年	３月２３日	大型消防ポンプ自動車購入。
昭和５７年	３月３１日	恵那市・蛭川村消防事務委託施行式。

昭和５８年１０月２６日　　恵那市消防署蛭川分署開署式。
昭和６３年１２月２８日　　消防ポンプ自動車購入（水力発電施設交付金）。
平成　元年１２月２５日　　コミュニティー消防センター建設（今洞）。
平成　２年１２月２５日　　コミュニティー消防センター建設（下沢）。
平成　３年１２月１２日　　消防詰所建設（田原）。
平成　４年１２月１５日　　消防詰所建設（棚田）。
平成　６年１０月２１日　　蛭川保育所幼年消防クラブ結成式。
平成１３年１２月１０日　　消防ポンプ自動車購入（第２分団１部配属）。
平成１７年　２月　　市町村合併により中津川市蛭川消防団に改称。
平成２０年　４月　　中津川市消防団蛭川分団と改称。

1　消防情勢

中津川市勢の概況



市　勢　　令和6年12月31日現在

面　積	人　口	世　帯　数
676.45k㎡	73,531人	31,920世帯

所在地

中津川市消防本部　中消防署	岐阜県中津川市かやの木町1番10号
中津川市中消防署　坂下分署	岐阜県中津川市坂下1410番地9
中津川市西消防署	岐阜県中津川市茄子川1785番地の36
中津川市西消防署　蛭川分署	岐阜県中津川市蛭川2207番地4
中津川市北消防署	岐阜県中津川市田瀬1836番地1
中津川市北消防署　加子母分署	岐阜県中津川市加子母3693番地2

合　併　状　況

年次	合併状況	面積(k㎡)	人口	世帯数
明治22年	中津川町制施行			
明治30年	手賀野・駒場村合併	69.78		
明治30年	中津町に改名	69.78		
昭和26年	恵那郡苗木町合併	101.48	28,590	5,743
昭和26年	中津川町に改名	101.48	28,590	5,743
昭和27年	中津川市制施行	101.48	30,987	5,955
昭和29年	恵那郡坂本村合併	134.58	35,887	7,227
昭和31年	恵那郡落合村合併	158.73	40,818	8,186
昭和32年	恵那郡阿木村合併	236.90	45,243	9,123
昭和33年	長野県西筑摩郡神坂村合併	276.53	46,781	9,559
平成17年	恵北地区、山口村、合併	676.45	86,488	28,271

比　較　表

消防本部（署）						消防団					
消防吏員一人に対する			ポンプ車1台に対する			消防団員一人に対する			ポンプ車1台に対する		
面積	人口	世帯数	面積	人口	世帯数	面積	人口	世帯数	面積	人口	世帯数
㎢	人	世帯	㎢	人	世帯	㎢	人	世帯	㎢	人	世帯
5.8	628	273	75.2	8,170	3,547	0.5	52	23	18.3	1,987	863
消防吏員数			消防ポンプ自動車			消防団員数			消防ポンプ自動車		
117人			9台			1,409人			37台		

令和6年度当初予算　　（単位:千円）

市一般会計予算額		45,140,000
消防費		1,667,157
内訳	常備消防費	1,056,915
	非常備消防費	163,022
	消防施設費	391,076
	防災対策費	56,144

市一般会計予算（当初）と消防費との比較　　（単位:千円）

区分／年度	市一般会計予算	消防費	比較
令和2年度	38,432,000	1,522,498	4.0%
令和3年度	38,150,000	1,314,464	3.4%
令和4年度	42,650,000	1,396,590	3.3%
令和5年度	41,260,000	1,475,159	3.6%
令和6年度	45,140,000	1,667,157	3.7%

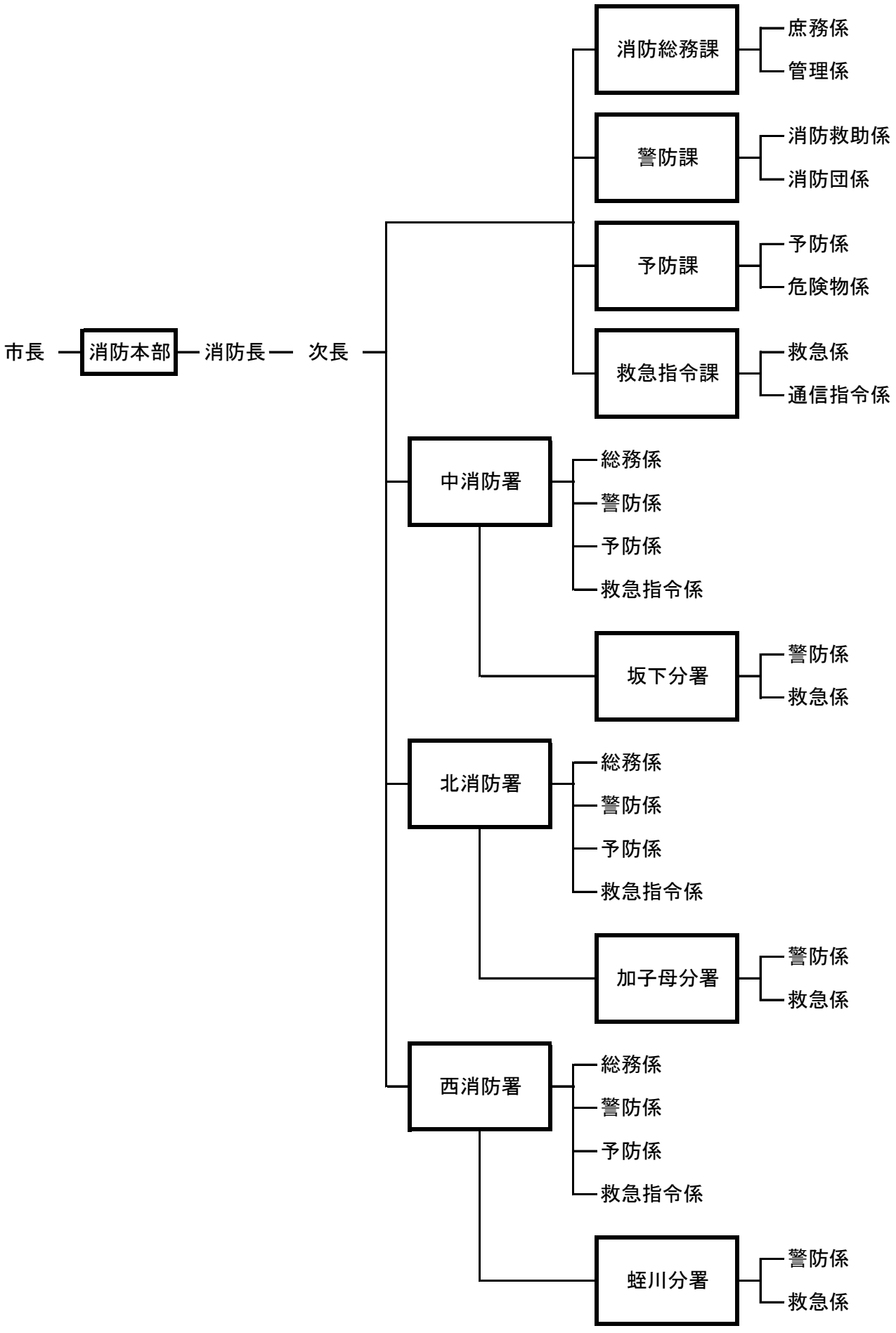
市民の消防費の割合

市民一人当たり	市民一世帯当たり
22,673円	52,229円

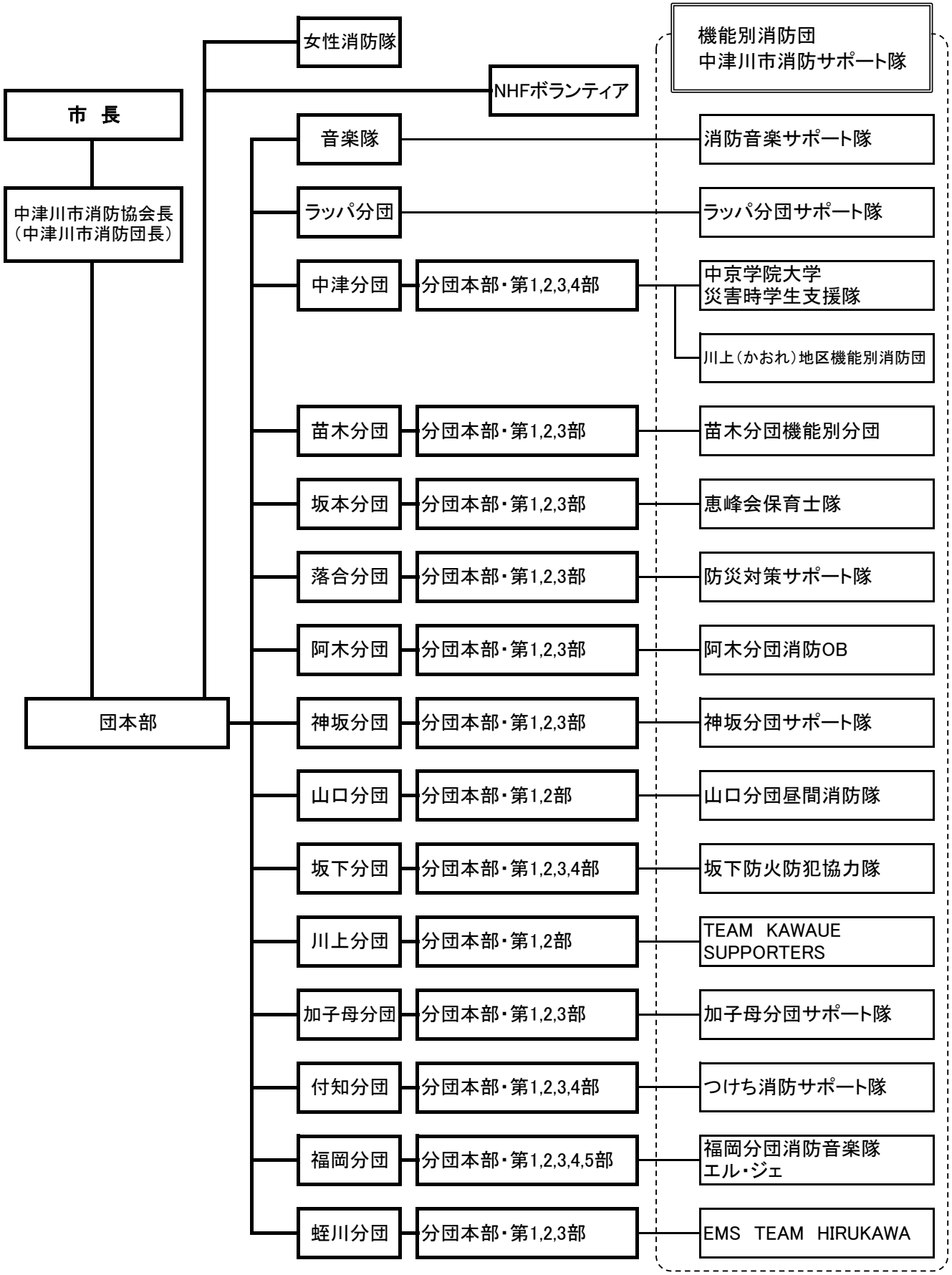
令和6年12月31日現在

面積	人口	世帯数
676.45	73,531人	31,920世帯

中津川市消防本部機構(組織)



中津川市消防団機構（組織）



事 務 分 掌

消防総務課

1　消防職員の進退及び身分に関すること。
2　予算及び経理に関すること。
3　消防に関する法令の執行に関すること。
4　消防施設に関すること。
5　消防機械器具の整備保全に関すること。
6　土地及び建物の管理並びに備品及び物品の出納保管に関すること。
7　公印の管守に関すること。
8　その他、他の課に属さない事務に関すること。

警 防 課

1　火災等の警戒及び防御に関すること。
2　消防教育及び指導に関すること。
3　消防団に関すること。
4　消防水利に関すること。
5　救助業務に関すること。
6　地震等災害の調査に関すること。
7　その他警防業務に関すること。

予 防 課

1　火災予防に関すること。
2　危険物の規制及び指導取締に関すること。
3　液化石油ガス及び高圧ガスの規制及び指導取締に関すること。
4　火薬類の規制及び指導取締に関すること。
5　建築物確認の同意及び消防用設備等の設置指導等に関すること。
6　火災の原因及び損害並びに報告及び統計に関すること。
7　消防対象物の立入検査及び指導に関すること。
8　女性防火クラブ及び少年幼年消防クラブの育成指導に関すること。
9　その他予防業務に関すること。

救急指令課

1　救急業務に関すること。
2　消防通信の運用、統制及び記録に関すること。
3　関係機関との通信連絡に関すること。
4　その他通信業務に関すること。

基準消防力と現有消防力の比較

人　　口　78,108人（令和元年整備計画）
市街地人口　13,282人（令和元年整備計画）

車　　両

種　　別	基準台数	現有台数	過不足
消防ポンプ自動車	8	8	0
はしご自動車	1	1	0
化学消防車	1	1	0
救助工作車	2	2	0
指揮車	3	5	2
救急車	7	7	0
合計	22	24	2

人　　員

	基準台数等に対する基準人員	現有人員	過不足
警防要員 （消防隊員 救急隊員 救助隊員 指揮隊員）	150	77	−73
予防要員	24	11	−13
警防要員をもって充てる予防要員の数	5	10	5
通信要員	7	12	5
その他の要員	8	17	9
合計	184	117	−67

署・団消防機械配置状況

中署	種別	水槽付ポンプ車	普通ポンプ車	化学車	ポンプ付屈折梯子車	救助工作車
	台数	1	1	1	1	1
	種別	小型動力ポンプ付水槽車	高規格救急車	指揮車	資材運搬車	連絡車
	台数	1	3	2	1	5
	種別	小型動力ポンプ	重機輸送車	広報車		
	台数	1	1	1		

北署	種別	水槽付ポンプ車	普通ポンプ車	救助工作車	指揮車	小型動力ポンプ付水槽車
	台数	1	1	1	1	1
	種別	高規格救急車	資材運搬車	連絡車	小型動力ポンプ	
	台数	2	1	2	2	

西署	種別	水槽付ポンプ車	高規格救急車	指揮車	連絡車	連絡車(軽)
	台数	1	1	1	1	1
	種別	資材運搬車				
	台数	1				

坂下	種別	水槽付ポンプ車	高規格救急車	連絡車(軽)
	台数	1	1	1

加子母	種別	水槽付ポンプ車	高規格救急車	防火広報車(軽)
	台数	1	1	1

蛭川	種別	水槽付ポンプ車	高規格救急車	指揮車
	台数	1	1	1

消防本部全車両	種別	水槽付ポンプ車	普通ポンプ車	化　学　車	ポンプ付屈折梯子車	救助工作車
	台数	6	2	1	1	2
	種別	小型動力ポンプ付水槽車	高規格救急車	指揮車	資材運搬車	連絡車
	台数	2	9	5	3	7
	種別	連絡車(軽)	広報車	重機搬送車	小型動力ポンプ	
	台数	3	1	1	4	
	消防本部		車両	43	小型動力ポンプ	3

	種別 / 所属	普通ポンプ車	消防輸送車	指令車（その他車両）	小型動力ポンプ
団	団本部	0	0	0	0
	中津分団	5	7	0	9
	苗木分団	2	5	0	7
	坂本分団	4	5	0	8
	落合分団	2	5	0	6
	阿木分団	2	4	0	5
	神坂分団	2	3	0	5
	山口分団	1	2	0	3
	坂下分団	3	5	1	6
	川上分団	1	3	0	3
	加子母分団	3	7	1	8
	付知分団	4	5	1	6
	福岡分団	5	5	1	9
	蛭川分団	3	5	0	6
	計	37	61	4	81

消 防 吏 員 配 置 状 況(令和6年12月31日現在)

所属＼階級		消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	合計
消防本部	消防長	1							1
	次長		1						1
	消防総務課		1	3	1	1	1	8	15
	警防課		1	1	4	2	1	3	12
	予防課		1	2	3	1	2	3	12
	救急指令課		1	3	3	2	1	3	13
	合　計	1	5	9	11	6	5	17	54
消防署・分署	中消防署		1	(9)	(11)	(6)	(5)	(17)	49(48)
	坂下分署			1	2	2	1	2	8
	北消防署		1	4	4	1	4	5	19
	加子母分署				3	2	1	2	8
	西消防署		1	3	4	1	4	6	19
	蛭川分署			1	3	1	1	2	8
	合　計		3	18	27	13	16	34	111
消防吏員合計		117							

※()内は、中消防署員と消防本部員の兼務数

消防吏員階級別年齢調 （令和6年12月31日現在）

階級別 / 年令	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	計
18 歳								
19 歳							4	4
20 歳								
21 歳							3	3
22 歳							6	6
23 歳							3	3
24 歳							4	4
25 歳							3	3
26 歳							4	4
27 歳						1	4	5
28 歳							2	2
29 歳						4		4
30 歳						1		1
31 歳						4		4
32 歳						2		2
33 歳							1	1
34 歳						2		2
35 歳						1		1
36 歳					2	1		3
37 歳					2			2
38 歳					3			3
39 歳					2			2
40 歳				1	2			3
41 歳					1			1
42 歳				3				3
43 歳				2	1			3
44 歳				2				2
45 歳								
46 歳				2				2
47 歳				4				4
48 歳				6				6
49 歳			2	3				5
50 歳		1	6					7
51 歳			3					3
52 歳		1	1					2
53 歳								
54 歳		4	3					7
55 歳		2						2
56 歳			1					1
57 歳			1					1
58 歳								
59 歳	1							1
60 歳			1	1				2
61 以上				3				3
計	1	8	18	27	13	16	34	117
平均年齢	59.0	53.5	48.8	45.9	38.6	31.3	23.9	37.8

消防吏員勤続年数調 （令和6年12月31日現在）

階級別 / 年数	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	計
1 年未満							6	6
1 年以上							4	4
2 〃							5	5
3 〃							5	5
4 〃							5	5
5 〃						1	2	3
6 〃							2	2
7 〃						2		2
8 〃						2	4	6
9 〃							1	1
10 〃					1	3		4
11 〃					1	3		4
12 〃						3		3
13 〃					1	1		2
14 〃					2	1		3
15 〃					2			2
16 〃					3			3
17 〃								
18 〃		1	2					3
19 〃			3	3	1			7
20 〃					2			2
21 〃				3				3
22 〃								
23 〃				4				4
24 〃				1				1
25 〃								
26 〃				1				1
27 〃				1				1
28 〃			1	3				4
29 〃		1	1	4				6
30 〃		1	3	3				7
31 〃		1	4					5
32 〃			1					1
33 〃		1						1
34 〃								
35 〃		3	1					4
36 〃								
37 〃								
38 〃			1					1
39 〃								
40 〃	1							1
41 〃				1				1
42 〃			1	2				3
43 〃				1				1
計	1	8	18	27	13	16	34	117
平均勤続年数	40.0	30.8	26.1	21.4	15.3	10.1	3.3	15.1

消防吏員諸手当支給状況

区分	休日給手当	時間外勤務手当	夜間勤務手当	特殊勤務手当	
支給額	隔日勤務者の1勤務7時間45分（1時間あたりの給与額の135/100）	1時間あたりの給与額の125/100（5:00～22:00）150/100（22:00～5:00）	1日3時間1時間あたりの給与額の25/100	消防吏員で水火災現場救急業務（救命士を除く。）等のため出動した職員1出場：350円 消防吏員で救命士として救急業務のため出動した職員1出場：500円	仮眠時間内の出動については時間外勤務手当に準ずる

消防吏員特殊技術資格所有者調

資格＼階級別		消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	計
運転免許	大型	1	6	17	23	9	13	11	80
	中型		2	1	4	4	3	7	21
救急業務資格者		1	8	18	27	13	16	34	117
救急Ⅱ・標準課程 修了者		1	8	18	27	13	16	34	117
救急救命士		1	3	4	11	7	7	12	45
	薬剤投与救命士	1	3	4	11	7	6	3	35
	挿管救命士	1	1	4	10	6	6		28
第3級陸上特殊無線技士		1	8	18	27	13	16	34	117
クレーン		1	8	17	23	6	6	4	65
玉掛け		1	8	16	23	6	6	3	63
小型船舶操縦士		1	4	8	18	8	4	1	44
ガス溶接技能士		1	4	4	7		1		17
潜水士			1	1	2		1	1	6
危険物取扱者免許状		1	4	10	23	13	16	34	101
消防設備士		1					1		2
有機溶剤作業主任者				1					1
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者			4	8	9	5			26

消防吏員教養実施状況調(現職)

学校	科・課程 ＼ 階級別		消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	計
消防大学校	トップセミナー									
	上級幹部科									
	幹部研修科					1				1
	警防科									
	予防科									
	危険物科				1	1				2
	救急科				1					1
	救助科			1		1				2
	火災調査科					1				1
	危機管理 講習会									
県消防学校	初任科		1	8	18	27	13	15	34	116
	専科	警防科			1	2	3	1		7
		予防科	1	2	2	3				8
		予防査察課程			3	1	1	1		6
		火災調査科				1		1		2
		機関科								
		救急科	1	7	13	14				35
		救急Ⅱ課程	1	7	12	11				31
		救急標準課程		1	6	16	12	15	34	84
		救助科		3	1	7		1		12
	幹部教育	初級								
		中級								
	特別教育	行政事務科	1							1
		操法指導		4	8	6	1	2	1	22
		らっぱ科								
		水難救助		1						1
		はしご車科			2	3				5
		特殊災害科		1		4				5
県外	救急救命士東京研修所		1	2	3	9	3	1	1	20
	〃 九州研修所					1				1
	〃 名古屋研修所			1	1		2	1		5
	〃 大阪研修所					1				1

消防吏員居住地状況調

階級別 / 地区	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	計
中津		3	4	8	3	7	11	36
苗木			2	4	2	3	3	14
坂本		1	2	3	4	2	2	14
落合				1		1	1	3
阿木				2		1		3
神坂			1					1
山口			1					1
坂下		1	2	1	1			5
川上			2	2				4
加子母		1	1	1	1		1	5
付知町		1		3		1	4	9
福岡	1	1	2	2	2	1	2	11
蛭川								
市外			1				10	11
合計	1	8	18	27	13	16	34	117

消防団員報酬表

階　級　別	団　長	副団長	分団長	副分団長	部　長	班　長	団　員	機能別団員
年 間 支 給 額	120,000	69,000	50,500	45,500	37,000	37,000	36,500	5,000

消防団員諸手当支給状況

区　　分	出動(場)手当て
支　給　額	日額　8,000円 （4時間未満は4,000円）

階級別団員数　　（令和6年12月31日現在）

階級別 / 分団別	計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	機能別団員
団　本　部	62	1	25	22		3	1	10	
音　楽　隊	32			1	1	2	3	23	2
ラッパ分団	12			1	7	3	0	1	
中 津 分 団	148			1	5	20	34	56	32
苗 木 分 団	117			1	5	17	19	57	18
坂 本 分 団	118			1	4	17	24	65	7
落 合 分 団	61			1	4	13	14	19	10
阿 木 分 団	91			1	4	15	12	40	19
神 坂 分 団	77			1	3	16	5	33	19
山 口 分 団	40			1	5	4	4	15	11
坂 下 分 団	123			1	8	26	21	35	32
川 上 分 団	45			1	6	2	4	21	11
加子母分団	106			1	15	15	25	30	20
付 知 分 団	145			1	4	43	12	62	23
福 岡 分 団	160			1	4	42	19	77	17
蛭 川 分 団	87			1	4	19	11	44	8
合　　計	1,424	1	25	37	79	257	208	588	229

消防団長　　（令和6年12月31日現在）

	歴代	氏名	在職年数	在職年月日
中津川市消防団	七代	桂川　邦俊	2年9ヶ月	令和4年　4月　1日　～

消防団員教育実施状況表

学　校	教育訓練の種別		R4,1,1～R4,12,31	R5,1,1～R5,12,31	R6,1,1～R6,12,31
消防学校	基　礎　教　育		2		4
	機　関　科		4		4
	幹部教育	初 級 幹 部 科		27	34
		指揮幹部科現場指揮課程	5	5	
		指揮幹部科分団指揮課程	4	4	5
	特別教育	指導員科	6	5	5
		大規模災害対応教育	課程なし	3	5
	短期入校(操法一日入校)		5	課程なし	課程なし

消防団員勤続年数調　　（令和6年12月31日現在）

年数 / 分団別	5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上 25年未満	25年以上 30年未満	30年以上	計
団　本　部	1	14			5	15	27	62
音　楽　隊	5	3	10		5	1	6	30
ラッパ分団				1	4	3	4	12
中 津 分 団	34	23	24	19	15	1		116
苗 木 分 団	15	20	31	27	6			99
坂 本 分 団	43	31	19	14	3		1	111
落 合 分 団	8	9	18	3	9	4		51
阿 木 分 団	14	16	24	11	6	1		72
神 坂 分 団	8	6	12	11	9	10	2	58
山 口 分 団	5	5	10	4	4	1		29
坂 下 分 団	10	18	17	22	11	13		91
川 上 分 団	5	5	11	7	3	3		34
加子母分団	14	15	22	18	14	3		86
付 知 分 団	8	32	24	28	26	4		122
福 岡 分 団	27	31	44	33	7	1		143
蛭 川 分 団	12	29	26	6	5	1		79
機能別団員	117	55	39	18				229
計	326	312	331	204	132	61	40	1,424

年齢別消防団員数調　　（令和6年12月31日現在）

階級別 / 年 齢	団　長	副団長	分団長	副分団長	部　長	班　長	団　員	機能別	計
20歳未満							9	5	14
20歳							8	4	12
21歳							5	6	11
22歳							13	3	16
23歳							10		10
24歳							13	2	15
25歳							11	1	12
26歳							23		23
27歳							26	2	28
28歳						2	26		28
29歳							17		17
30歳					1	1	21		23
31歳						4	29	3	36
32歳					2	4	25		31
33歳						5	26	1	32
34歳					3	3	23		29
35歳					2	11	33		46
36歳					4	12	32	1	49
37歳					10	15	31		56
38歳					11	16	38	2	67
39歳					7	25	28	1	61
40歳				1	12	23	28	2	66
41歳				1	24	20	15		60
42歳				1	23	12	11	1	48
43歳				2	26	13	17		58
44歳			1	8	35	9	13	4	70
45歳				3	24	10	6	2	45
46歳			2	13	29	7	6	4	61
47歳			2	12	13	5	7	8	47
48歳			4	11	9	3	9	4	40
49歳			6	9	5		2	6	28
50歳		1	4	3	4	4	1	5	22
51歳		3	4	7	3	2	4	10	33
52歳		1	5	1	3	1		6	17
53歳			1		3		1	9	14
54歳		1	1	2			2	10	16
55歳		2	2	2		2	3	15	26
56歳		4	2	1	1		2	5	15
57歳		1	1	1				7	10
58歳		3					1	4	8
59歳		7		1			4	9	21
60歳以上	1	2	2		3		8	87	103
計	1	25	37	79	257	209	587	229	1,424
平均年齢									41.4

消防団員表彰

表彰の種類 ＼ 年別		令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
総理府賞勲局	藍綬褒章	3	1	2	1
消防庁長官表彰	特別功労章				
	顕功章				
	功績章				
	功労章				
	永年勤続功労章	6	3	5	8
日本消防協会長表彰	功績章	6	4	2	2
	精績章	8	6	6	6
	勤続章	10	10	8	5
	特別表彰 （天皇陛下即位記念）				
	特別表彰(まとい)				
岐阜県知事表彰	特別功労章	1			1
	永年勤続功労章	17	14	16	16
	勤続功労章	18	16	16	16
	功労章	72	63	69	62
	消防団員優秀家族章	20	21	32	5
岐阜県消防協会長表彰	表彰鳶	1			
	功績章	77	101	69	104
	勤労章２０年	27	34	39	37
	勤労章１５年	71	25	80	25
中津川市長表彰	勤続１５年	41	32	23	80
	賞詞（操法）			5	6
中津川市消防協会長表彰	功績章	71	67	73	123
	勤労１０年	31	88	95	21
中津川市消防団長表彰	勤労５年	104	43	31	85

岐阜県消防操法大会出場分団一覧表

回	年 月 日	開 催 地	出 場 分 団	順 位	種 別
28	S 54.08.05	萩 原 町	中津第3部 坂下町第1分団第1部	5	自動車ポンプ
29	S 55.08.03	谷 汲 村	中津第3部 加子母村第3分団第10班	7 準優勝	小型動力ポンプ
30	S 56.08.02	山 岡 町	中津第3部		自動車ポンプ
31	S 57.08.08	羽 島 市	阿木第4部	7	小型動力ポンプ
32	S 58.08.07	武 儀 町	中津第2部 坂下町第2分団第2部		自動車ポンプ
33	S 59.08.05	古 川 町	阿木第4部 加子母村第2分団第4班	6 準優勝	小型動力ポンプ
34	S 60.08.04	海 津 町	中津第4部 福岡町消防団		自動車ポンプ
35	S 61.08.03	福 岡 町	阿木第4部 福岡町消防団	6 準優勝	小型動力ポンプ
36	S 62.08.02	高 富 町	中津第1部 坂下町第1分団第1部	準優勝	自動車ポンプ
37	S 63.08.07	美 濃 市	阿木第4部 加子母村本部班	7 3	小型動力ポンプ
38	H 01.08.06	高 山 市	坂本第3部 福岡町消防団		自動車ポンプ
39	H 02.08.05	安 八 町	坂本第3部 加子母村第1分団第3班	準優勝 4	小型動力ポンプ
40	H 03.08.04	多 治 見 市	中津第1部 福岡町消防団	準優勝 4	自動車ポンプ
41	H 04.08.09	岐 阜 市	阿木第1部 福岡町消防団	5	小型動力ポンプ
42	H 05.08.01	美濃加茂市	中津第3部 福岡町消防団	4	自動車ポンプ
43	H 06.08.07	久 々 野 町	中津第3部 福岡町消防団	準優勝	小型動力ポンプ
44	H 07.08.06	大 垣 市	神坂第3部 福岡町消防団	3	自動車ポンプ
45	H 08.08.04	中 津 川 市	中津第1部 加子母村本部班	準優勝 6	小型動力ポンプ
46	H 09.08.03	各 務 原 市	神坂第3部 福岡町消防団	準優勝	自動車ポンプ
47	H 10.08.02	明 宝 村	落合第1部 加子母村第1分団第1班	優勝	小型動力ポンプ
48	H 11.08.01	上 宝 村	神坂第3部 加子母村第3分団第9班	9	自動車ポンプ
49	H 12.07.30	養 老 町	中津第4部 福岡町消防団		小型動力ポンプ
50	H 13.08.05	瑞 浪 市	中津第4部 川上村消防団	6	自動車ポンプ
51	H 14.08.04	本 巣 町	神坂第3部 福岡町消防団	優勝 7	小型動力ポンプ
52	H 15.08.03	関 市	落合第1部 坂下町第2分団第1部	10	自動車ポンプ
53	H 16.08.01	下 呂 市	中津第4部 福岡町消防団	優勝 5	小型動力ポンプ
54	H 17.08.07	垂 井 町	中津第3部 川上村消防団	9 7	自動車ポンプ
55	H 18.08.06	土 岐 市	福岡消防団第4分団	8	小型動力ポンプ
56	H 19.08.05	笠 松 町	中津川消防団落合分団		自動車ポンプ
57	H 20.08.03	富加町	中津分団		小型動力ポンプ
58	H 21.08.02	飛騨市	坂下分団	中止	自動車ポンプ
59	H 22.08.01	揖斐川町	福岡分団	6	小型動力ポンプ
60	H 23.08.07	恵那市	坂下分団	4	自動車ポンプ
61	H 24.08.05	羽島市	神坂分団	7	小型動力ポンプ
62	H 25.08.04	可児市	坂下分団	3	自動車ポンプ
63	H 26.08.03	白川村	福岡分団	11	小型動力ポンプ
64	H 27.08.02	海津市	坂下分団	3	自動車ポンプ
65	H 28.08.07	多治見市	中津分団	優勝	小型動力ポンプ
66	H 29.08.06	瑞穂市	中津分団	7	自動車ポンプ
67	H 30.08.05	郡上市	坂下分団	準優勝	小型動力ポンプ
68	R 01.08.04	高山市	落合分団	15	自動車ポンプ
69	R 02.08.01	神戸町	大会中止		小型動力ポンプ
70	R 03.08.01	中津川市	大会中止		自動車ポンプ
71	R 04.08.07	山県市	落合分団	8	小型動力ポンプ
72	R 05.08.06	岐阜県消防学校	坂本分団	準優勝	自動車ポンプ
73	R6.10.27	岐阜県消防学校	福岡分団	10	小型動力ポンプ

幼年消防クラブ加入状況

幼年に、消防研修を行い、火に対する正しいしつけを身につけさせ、各園、各家庭からの火災の軽減を図るとともに、将来人命を尊重し、財産の保全を図る社会人として素地をかん養することを目的として、昭和57年5月10日に中津川市幼年消防クラブを設立した。

地　区　別	加入幼稚園・保育園	構　成　数	クラブ員数(人)
中津地区	杉の子幼稚園	1	198
	南さくら幼稚園	1	129
	にし　こまの森	1	65
	東さくら保育園	1	80
加子母地区	市立加子母こども園	1	42
福岡地区	市立福岡保育園	1	52
	市立下野保育園	1	34
	市立高山保育園	1	34
計		8	634

女性防火クラブ状況

女性防火クラブは、防火に対する知識を習得するとともに家庭における火災予防に努め、災害の無い平和で豊かな郷土の建設に寄与することを目的とし、我が家から火災を出さないことを念頭に各13地区別に女性防火クラブを設立した。

地　区　別	事務開始年月日	構　成　数	クラブ員数(人)
中津西地区	昭和41年12月20日	1	23
中津東地区	平成21年 6月18日	1	17
苗木地区	昭和39年 4月 1日	1	14
坂本地区	昭和42年 4月 1日	1	24
落合地区	昭和42年 2月24日	1	21
阿木地区	昭和42年 4月 1日	1	26
神坂地区	昭和42年 4月 1日	1	8
坂下地区	昭和41年 4月 1日	1	27
川上地区	昭和41年 4月 1日	1	11
加子母地区	昭和28年12月 1日	1	10
付知町地区	昭和40年11月 1日	1	11
福岡地区	昭和41年 4月 1日	1	15
蛭川地区	昭和42年11月15日	1	19
山口地区	平成17年2月13日	1	12
計		14	238

少年消防クラブ加入状況

少年に対して、明朗で活発な気風を養い、併せて火災予防の普及及び一般防火思想の向上を図り、少年の教育に寄与することを目的に地域別に少年消防クラブを設立した。

地　区　別	設 立 年 月 日	構　成　数	クラブ員数(人)
中津地区(西七区)	昭和55年11月16日	1	15
加子母地区(加子母中学校)	昭和40年 9月 1日	1	46
福岡地区(福岡中学校)	昭和38年 4月 1日	1	165
計		3	226

通信施設現勢表

<table>
<tr><td>種別</td><td colspan="10"></td></tr>
<tr><td rowspan="6">消防用無線デジタル（超短波）</td><td>基地局 5</td><td>固定局 4</td><td>消防本部(中署)</td><td>北消防署</td><td>西消防署</td><td>坂下分署</td><td>加子母分署</td><td>蛭川分署</td><td>市民病院</td><td>計</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>9</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>9</td></tr>
<tr><td rowspan="4">移動局</td><td>車載 39</td><td colspan="8"></td></tr>
<tr><td></td><td>17</td><td>10</td><td>4</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td><td>1</td><td>39</td></tr>
<tr><td>携帯 45
可搬型 3
卓上型 7</td><td colspan="8"></td></tr>
<tr><td></td><td>27</td><td>9</td><td>7</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td></td><td>55</td></tr>
<tr><td rowspan="14">電話市外局番（0573）</td><td colspan="10">中消防署</td></tr>
<tr><td colspan="10">災害専用
１１９</td></tr>
<tr><td colspan="10">一般加入
通信指令室　消防総務課　予防課　警防課
６６－１１１９　６６－１１７４　６６－１６１９　６６－１１９４
６６－１２０７
救急指令課　FAX
６６－２０３９　６５－５３９０</td></tr>
<tr><td colspan="10">坂下分署</td></tr>
<tr><td colspan="10">一般加入　FAX
７０－０１１９　７０－０１２０</td></tr>
<tr><td colspan="10">北消防署</td></tr>
<tr><td colspan="10">一般加入　FAX
７６－０１１９　７２－４１７９</td></tr>
<tr><td colspan="10">加子母分署</td></tr>
<tr><td colspan="10">一般加入　FAX
７９－０１１９　７９－０１２０</td></tr>
<tr><td colspan="10">西消防署</td></tr>
<tr><td colspan="10">一般加入　FAX
６８－５１１９　６８－５０９９</td></tr>
<tr><td colspan="10">蛭川分署</td></tr>
<tr><td colspan="10">一般加入　FAX
４５－２６３４　４５－３４５０</td></tr>
</table>

水利施設表　　令和6年12月31日現在

水利区分 / 地区	消火栓		防火水槽				
	網掛け部分 地下配管50mm 消火栓	地上式 / 地下式	40t未満	40t～60t未満	60t～100t未満	100t以上	計
中津地区	526	428	5	23	12	3	43
		98		耐16	飲耐2　耐10	飲耐1　耐2	
苗木地区	145	139	1	7	2	0	10
		6		耐3	耐1		
坂本地区	310	249	5	7	1	0	13
		61		耐3	耐1		
落合地区	81	79	2	2	1	0	5
		2		耐1	耐1		
阿木地区	88	86	3	2	0	1	6
	(2)	2		耐0			
神坂地区	19	19	1	6	0	0	7
		0		耐6			
山口地区	116	116	21	23	2	0	46
	(2)	0		耐18	耐1		
馬籠地区	70	69	4	14	4	1	23
		1		耐11	耐1	耐1	
坂下地区	278	271	9	35	1	0	45
	(15)	7		耐5	耐0		
川上地区	58	58	2	10	0	0	12
	(1)	0		耐4			
加子母地区	133	130	7	34	0	0	41
	(8)	3		耐3			
付知地区	435	434	2	13	6	1	22
	(6)	1		耐3	耐3		
福岡地区	440	431	9	30	0	0	39
	(25)	9		耐9			
蛭川地区	346	328	1	7	1	0	9
		18		耐1			
合　計	3045	2837	72	213	30	6	321
	(59)	208		耐83	飲耐2　耐18	飲耐1　耐3	飲耐3　耐104
							非耐　214

※「　飲耐　」は飲料水兼用耐震性貯水槽
「　耐　」は耐震性貯水槽
加子母地区の50mm消火栓については、配管内径が50mmで口金は65mmである

２　予 防 統 計

地区別危険物製造所等の数

署・地区別 ＼ 製造所等の別		製造所	貯蔵所 屋内	貯蔵所 屋外タンク	貯蔵所 屋内タンク	貯蔵所 地下タンク	貯蔵所 簡易タンク	貯蔵所 移動タンク	貯蔵所 屋外	取扱所 給油 営業用	取扱所 給油 自家用	取扱所 販売	取扱所 一般	合計
中消防署	中津地区		18	10	7	17		16	0	7	6		16	97
	苗木地区		3		1	5		4	1	3			3	20
	落合地区		4			3			1	2	1		3	14
	神坂地区					3							1	4
	坂下地区		3	6		6		4		2			4	25
	川上地区					1								1
	山口地区			2						1				3
北消防署	加子母地区		2	1		6		2	1	3	1		1	17
	付知町地区			4		4		1		2	1		4	16
	福岡地区			5	2	7		1		5			4	24
西消防署	坂本地区	2	23	3	2	7		13	2	7	6		10	75
	阿木地区			7	2			1		1			1	12
	蛭川地区		3	2	5	3		5		1	1		3	23
計		2	56	40	19	62	0	47	5	34	16	0	50	331

危険物製造所等の数並びに施設指導状況

署・指導別 ＼ 製造所等の別		製造所	貯蔵所 屋内	貯蔵所 屋外タンク	貯蔵所 屋内タンク	貯蔵所 地下タンク	貯蔵所 簡易タンク	貯蔵所 移動タンク	貯蔵所 屋外	取扱所 給油 営業用	取扱所 給油 自家用	取扱所 販売	取扱所 一般	合計
中消防署	施設数		28	18	8	35		25	3	15	7		27	166
	査察件数		25	15	8	35		25	3	13	7		27	158
	違反指摘票発送件数		5	2		11		6	1	4			7	36
	通知書発送件数		5	2		11		6	1	4			7	36
	警告書発送件数													0
	命令書発送件数													0
北消防署	施設数		2	10	2	17		4	1	10	2		9	57
	査察件数		2	9	1	10		5		9	1		8	45
	違反指摘票発送件数		1	4	1	1							1	8
	通知書発送件数		1	4	1	1							1	8
	警告書発送件数													0
	命令書発送件数													0
西消防署	施設数	2	26	12	9	10		19	2	9	7		14	110
	査察件数	2	14	15	6	5		17	2	7	3		12	83
	違反指摘票発送件数			2	1	1				4	1		2	11
	通知書発送件数			2	1	1				4	1		2	11
	警告書発送件数													0
	命令書発送件数													0

危険物製造所等の各署許可･検査状況

製造所等の別 / 署･許可･検査別		製造所	貯蔵所							取扱所				合計
			屋内	屋外タンク	屋内タンク	地下タンク	簡易タンク	移動タンク	屋外	給油 営業用	給油 自家用	販売	一般	
中消防署	設置許可					3		1						4
	変更許可									1			2	3
	水張検査													0
	水圧検査													0
	完成検査					1		1		1			2	5
北消防署	設置許可													0
	変更許可									1				1
	水張検査													0
	水圧検査									4				4
	完成検査									6				6
西消防署	設置許可		3					1			1		1	6
	変更許可										1		16	17
	水張検査													0
	水圧検査													0
	完成検査		2					1			2		19	24

危険物仮貯蔵所その他届出状況

区分	中消防署	北消防署	西消防署	合計
危険物仮貯蔵･取扱承認申請書	2	0	1	3
危険物製造所等廃止届出書	3	1	12	16
危険物製造所等品名等変更届出書	3	0	11	14
危険物製造所等譲渡引渡届出書	1	1	0	2
危険物製造所等仮使用承認申請書	2	1	15	18
危険物保安監督者選解任届出書	7	1	6	14
危険物製造所等休止再開届出書	0	0	1	1

火薬類取締法に基づく許可件数

月別		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
許可（煙火打ち上げ件数）	中消防署							7		3				10
	北消防署							4						4
	西消防署							2						2
	合計	0	0	0	0	0	0	13	0	3	0	0	0	16

高圧ガス保安法（施設件数）

	1種製造所	2種製造所	1種貯蔵所	特定消費施設	計
中消防署	7	7	2	4	20
北消防署	0	2	0	0	2
西消防署	5	1	7	10	23
計	12	10	9	14	45

液化石油ガス法（販売事業者数）

	販売事業者	保安機関	設備工事事業者
中消防署	10	10	10
北消防署	4	4	4
西消防署	3	3	3
計	17	17	17

各種届出の状況

署別 / 届出別	中消防署	北消防署	西消防署	合 計
防火対象物使用開始届	35	10	22	67
消防計画作成・変更届	77	30	43	150
防火管理者選任・解任届	71	25	31	127
消防用設備着工届	38	14	26	78
消防用設備設置届	59	50	79	188
消防用設備特例適用承認申請	4	2	1	7
消防用設備等点検結果報告書	771	358	343	1,472
防火対象物点検結果報告書	39	11	15	65
防火対象物特例認定申請書	0	1	0	1
炉・厨房設備・ボイラー等の設置届	15	2	3	20
発電・変電・蓄電池設置届	73	2	12	87
煙火の打ち上げ又は仕掛の届	4	6	3	13
少量危険物等貯蔵取り扱い届	12	9	11	32
指定可燃物等貯蔵取り扱い届	1	0	3	4
圧縮アセチレンガス等貯蔵取り扱い届	24	4	12	40

工事別建築同意件数表

署・工事別＼月別		計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
中消防署	新築	35	3	2	3	4	3	4	4	3	2	2	1	4
	増築	4				1	1					1	1	
	改築	1												1
	用途変更	1						1						
北消防署	新築	1							1					
	増築	0												
	改築	0												
	用途変更	0												
西消防署	新築	31	4	3	1	2	2	4	5	2	2	2	3	1
	増築	3		1		1		1						
	改築	0												
	用途変更	2	1						1					
計		78	8	6	4	8	6	10	11	5	4	5	5	6

地区別建築同意件数表

署・地区別＼月別		計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
中消防署	中津地区	32	1	2	3	5	4	4	2	3	2	1	2	3
	苗木地区	6	1					1	2					2
	落合地区	3	1									2		
	神坂地区	0												
	坂下地区	0												
	川上地区	0												
	山口地区	0												
北消防署	加子母地区	0												
	付知町地区	1							1					
	福岡地区	0												
西消防署	坂本地区	35	5	4	1	3	2	5	5	2	1	3	3	1
	阿木地区	0												
	蛭川地区	1							1					
計		78	8	6	4	8	6	10	11	5	3	6	5	6

建築物用途別同意件数表

用途別＼消防署別			中消防署	北消防署	西消防署	合計
1	イ	劇場・映画館等				0
	ロ	公会堂・集会所等				0
2	イ	キャバレー・カフェー等				0
	ロ	遊技場、ダンスホール				0
	ハ	性風俗関連特殊営業店舗等				0
3	イ	待合・料理店等				0
	ロ	飲食店等	1			1
4		百貨店・マーケット等	5		1	6
5	イ	旅館・ホテル等			2	2
	ロ	共同住宅・寄宿舎等	1	1	4	6
6	イ	病院・診療所・助産所			2	2
	ロ	老人短期入所・老人ホーム				0
	ハ	保育園・盲学校等			1	1
	ニ	幼稚園・特別支援学校				0
7		小・中・高・大学校等				0
8		図書館・美術館等				0
9	イ	蒸気浴場・熱気浴場等				0
	ロ	イ以外の公衆浴場				0
10		車両の停車場等				0
11		神社・寺院・教会等	2			2
12	イ	工場・作業場	4		4	8
	ロ	映画スタジオ等				0
13	イ	自動車車庫・駐車場	1		2	3
	ロ	飛行機の格納庫等				0
14		倉庫	2		8	10
15		前各項に該当しない事業所	3		11	14
16	イ	特定複合用途防火対象物	4			4
	ロ	イ以外の複合用途防火対象物				0
17		文化財等				0
18		アーケード				0
		専用住宅	15			15
		併用住宅	3			3
		その他			1	1
		合計	41	1	36	78

3　火 災 統 計

火災概況

火災件数	損害額	焼損床面積	焼損表面積	林野焼失面積	死者	負傷者
32	8,342	248	69	0	2	5

火災覚知別件数

覚知番号		建物(住)	建物(他)	林野	車両	船舶	その他	計
1	専用―固定1	0	2	0	0	0	0	2
2	専用―固定2	2	0	0	0	0	5	7
3	専用―携帯	6	3	0	0	0	7	16
4	加入―固定	0	0	0	0	0	0	0
5	加入―携帯	0	0	0	0	0	1	1
6	警察電話	0	0	0	0	0	0	0
7	駆けつけ	0	0	0	0	0	0	0
8	事後聞知	2	3	0	1	0	0	6
9	その他	0	0	0	0	0	0	0
	計	10	8	0	1	0	13	32

※固定1はNTT加入以外

地域別件数表

			火災種別									
			建物火災		林野火災		車両火災		船舶火災		その他火災	
	件数合計	損害額合計	件数	損害額	件数	損害額	件数	損害額	件数	損害額	件数	損害額
中津	7	4,865	5	4,865	0	0	0	0	0	0	2	0
苗木	3	2,291	2	2,291	0	0	0	0	0	0	1	0
坂本	5	200	2	0	0	0	1	200	0	0	2	0
落合	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
阿木	5	114	3	114	0	0	0	0	0	0	2	0
神坂	1	64	1	64	0	0	0	0	0	0	0	0
山口	1	4	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0
坂下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
川上	1	44	1	44	0	0	0	0	0	0	0	0
加子母	3	88	2	88	0	0	0	0	0	0	1	0
付知町	1	672	1	672	0	0	0	0	0	0	0	0
福岡	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
蛭川	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
中央道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	32	8,342	18	8,142	0	0	1	200	0	0	13	0

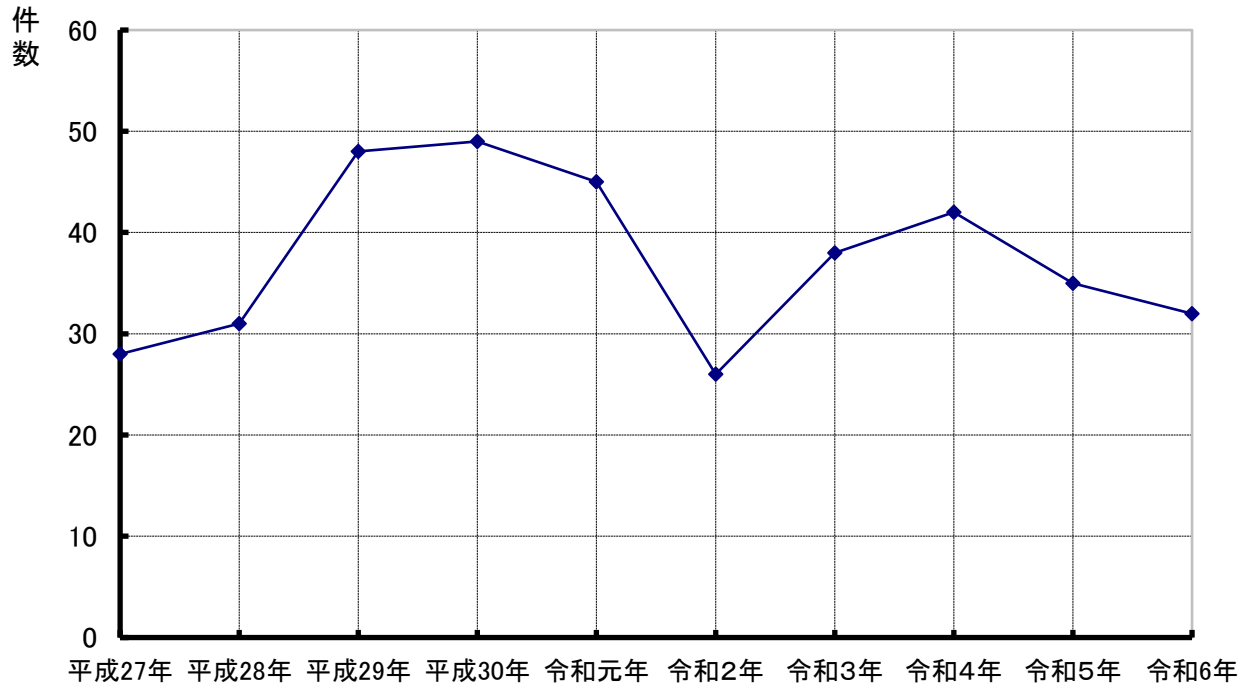
（損害額単位：千円）

月別件数及び損害額表

（単 位 ： 千 円）

			建物				林野			車両		船舶		その他	
月	件数	損害額	件数	床面㎡	表面㎡	損害額	件数	焼失面積a	損害額	件数	損害額	件数	損害額	件数	損害額
1	4	4,821	3	176	23	4,821	0	0	0	0	0	0	0	1	0
2	3	2,293	2	0	1	2,293	0	0	0	0	0	0	0	1	0
3	6	3	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	5	0
4	5	866	4	69	45	866	0	0	0	0	0	0	0	1	0
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
6	3	114	3	2	0	114	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	2	200	0	0	0	0	0	0	0	1	200	0	0	1	0
9	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
10	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
11	2	45	2	1	0	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	2	0	1	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
計	32	8,342	18	248	84	8,142	0	0	0	1	200	0	0	13	0

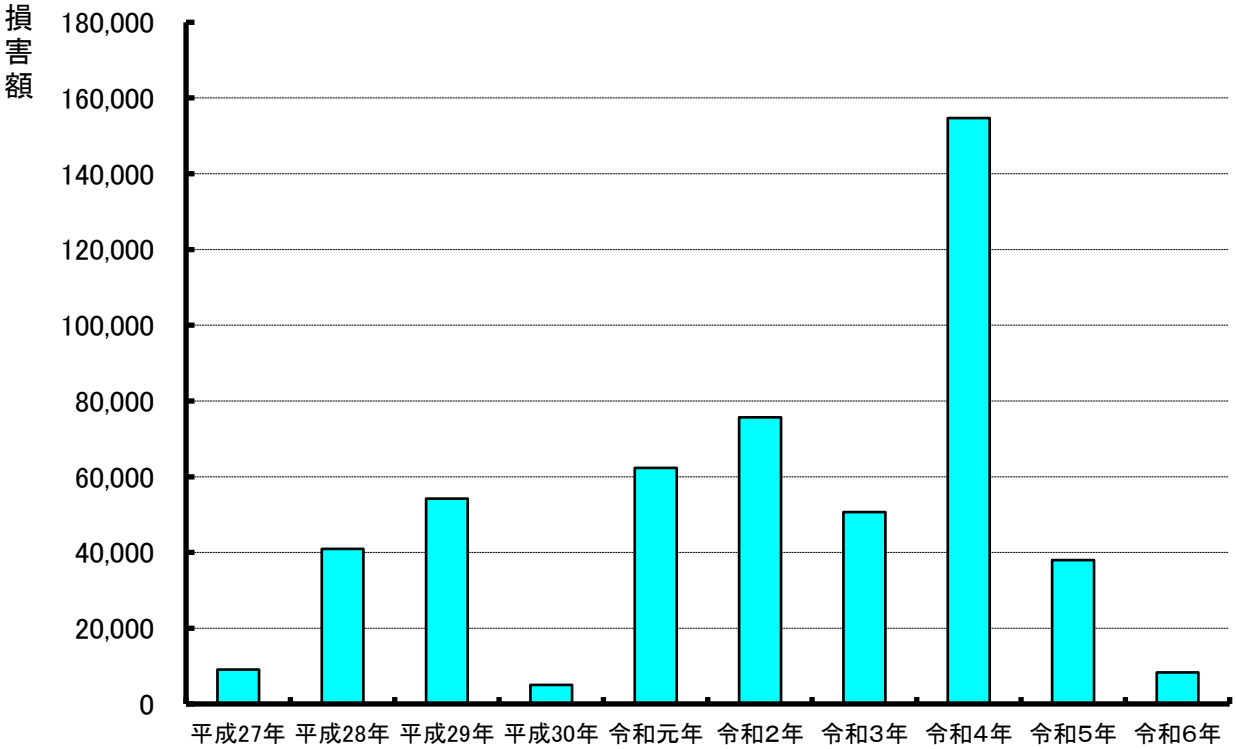
過去10年間の火災発生件数



	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
件　数	28	31	48	49	45	26	38	42	35	32

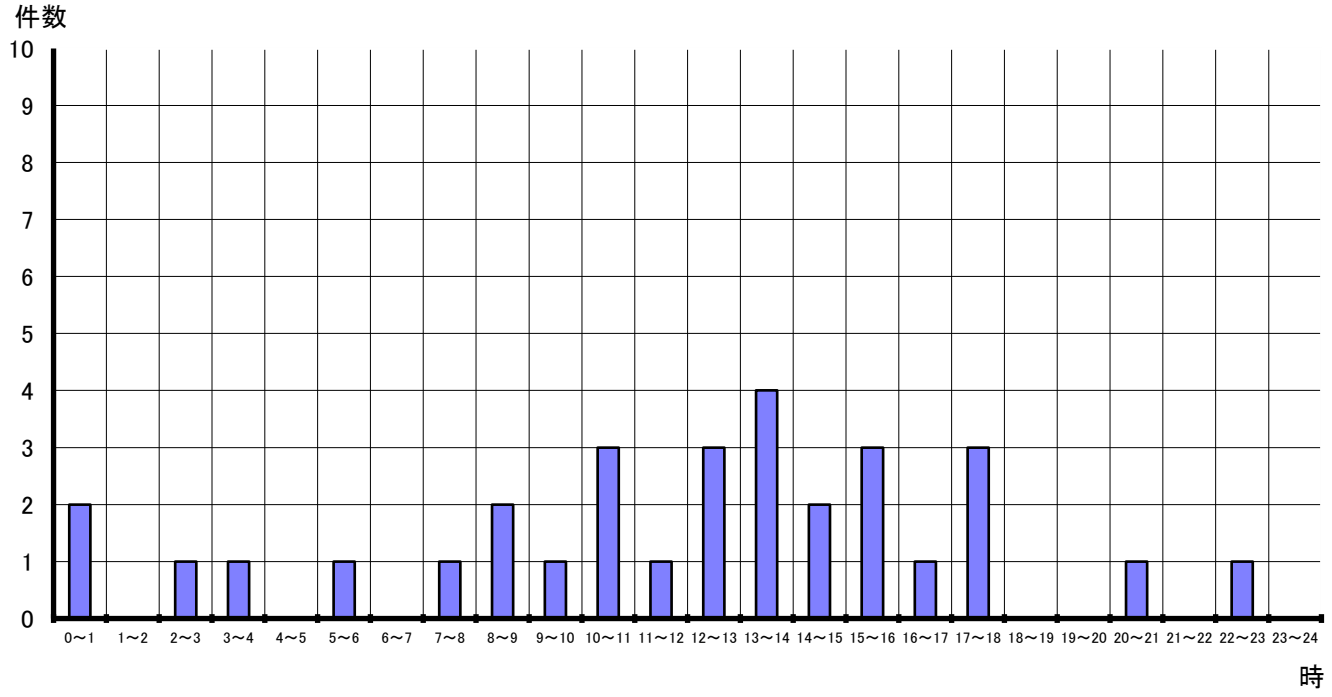
過去10年間の火災損害額状況表

（単位：千円）



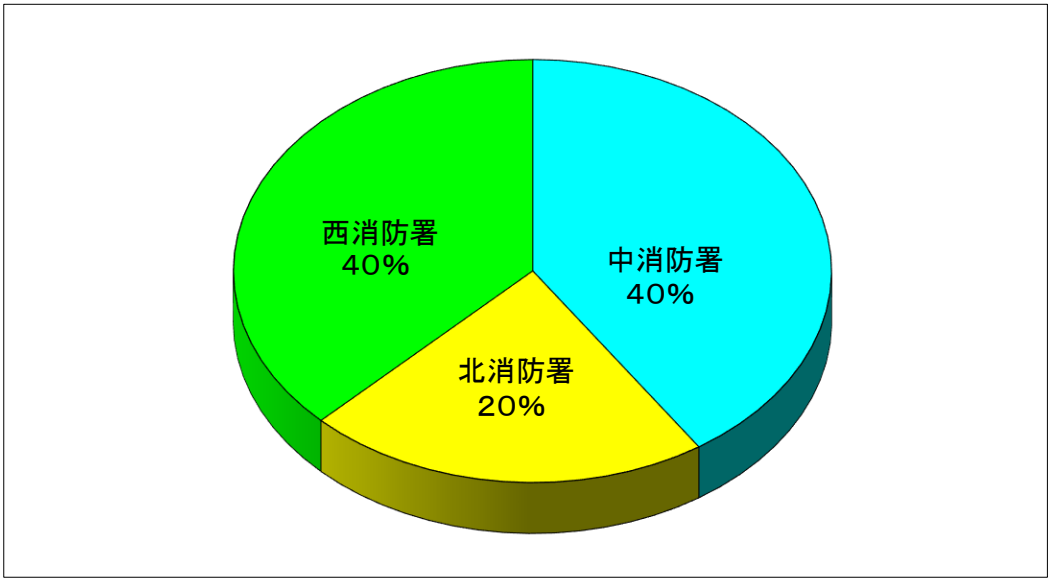
	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
損害額	9,053	40,961	54,223	4,981	62,337	75,692	50,691	154,724	38,023	8,342

時間別火災発生件数



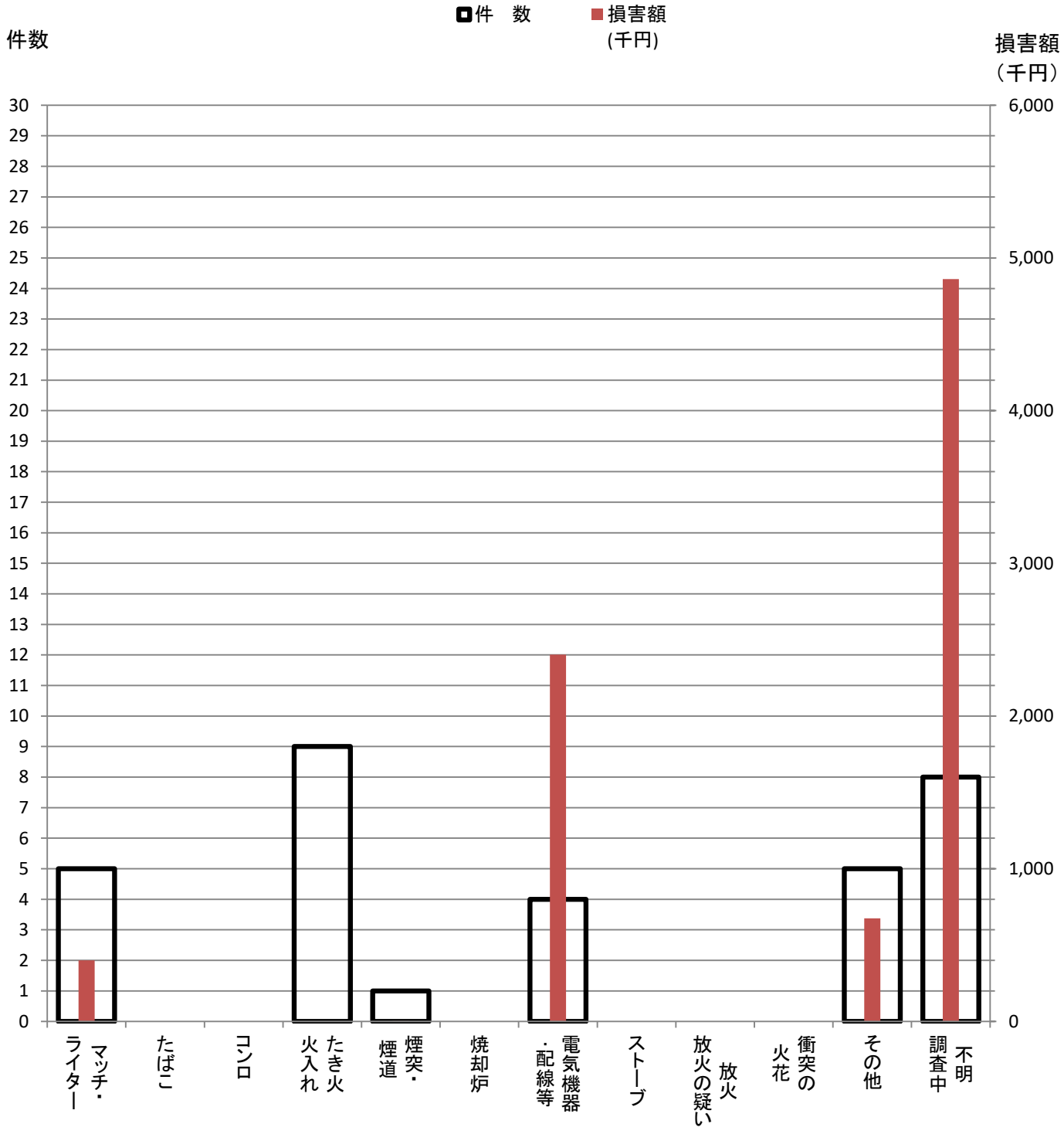
時間	0~1	1~2	2~3	3~4	4~5	5~6	6~7	7~8	8~9	9~10	10~11	11~12	12~13	13~14	14~15	15~16	16~17	17~18	18~19	19~20	20~21	21~22	22~23	23~24	不明	計
件数	2	0	1	1	0	1	0	1	2	1	3	1	3	4	2	3	1	3	0	0	1	0	1	0	1	32

署別火災件数



中消防署	北消防署	西消防署
13件	7件	12件

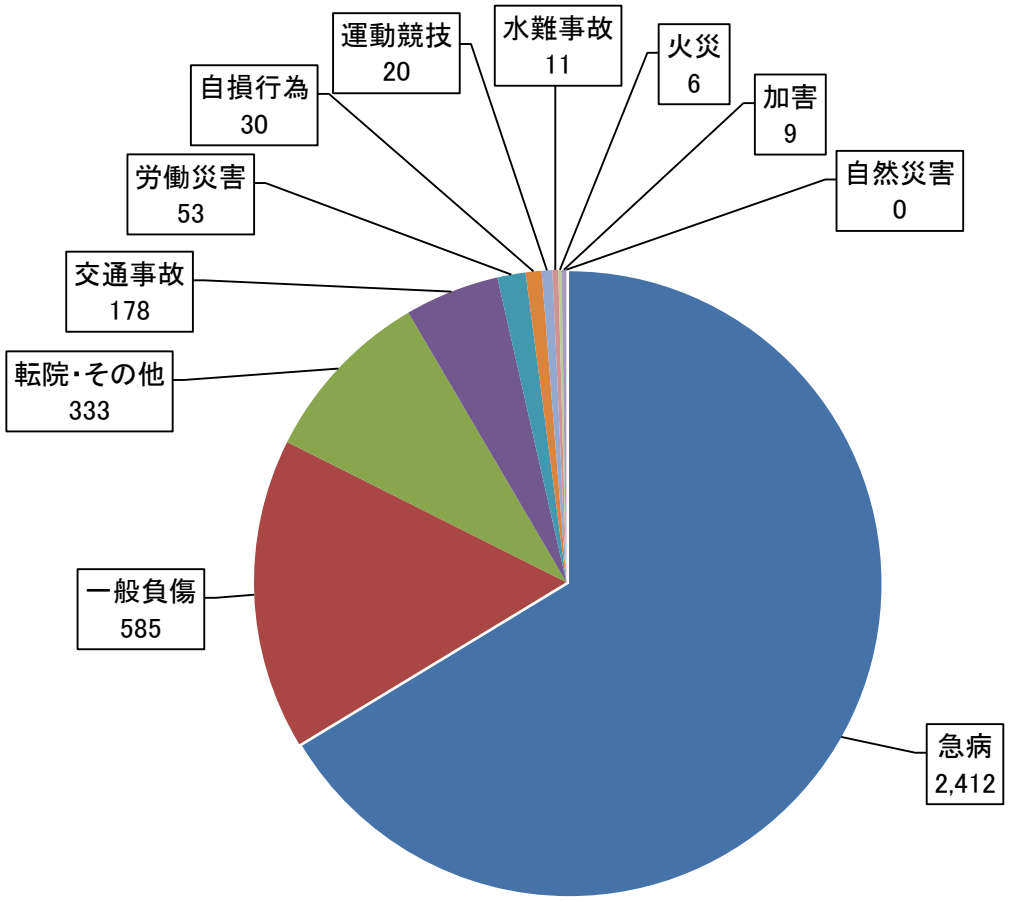
出火原因別件数及び損害額



原因別	マッチ・ライター	たばこ	コンロ	たき火 火入れ	煙突・煙道	焼却炉	電気機器・配線等	ストーブ	放火 放火の疑い	衝突の火花	その他	不明 調査中	合　計
件　数	5	0	0	9	1	0	4	0	0	0	5	8	32
損害額（千円）	400	0	0	0	2	0	2,403	0	0	0	676	4,861	8,342

４　救急救助統計

救急種別出場件数



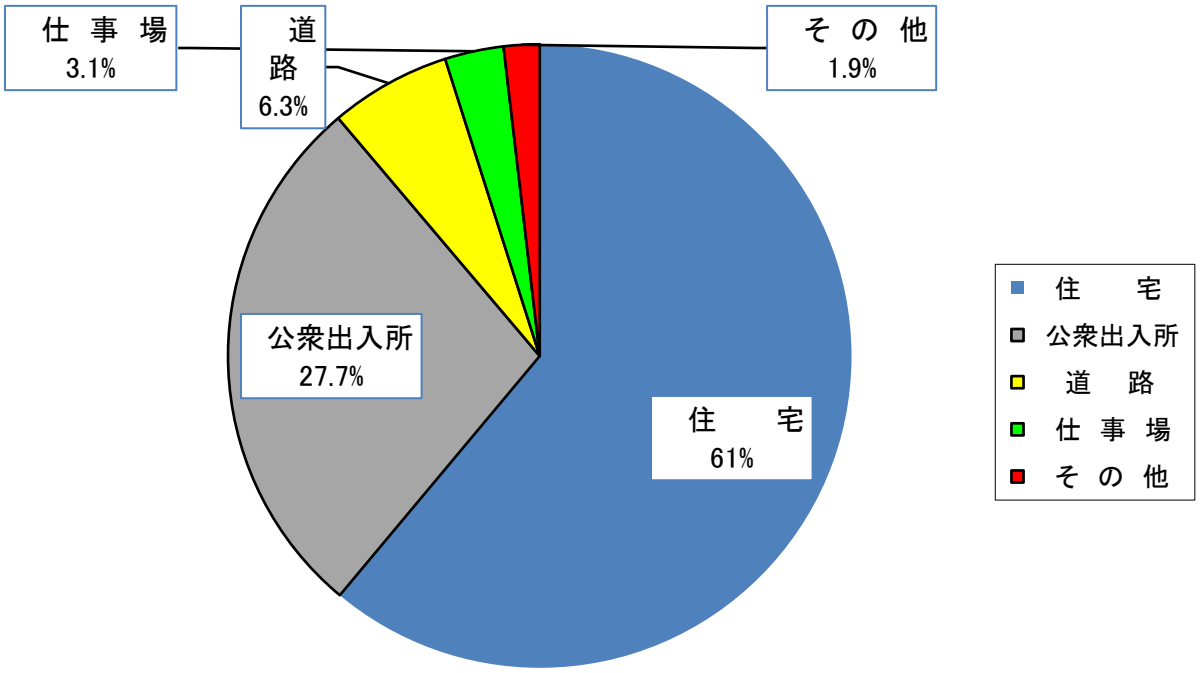
令和6年

救急出場件数　3,637件

救急搬送人員　3,343人

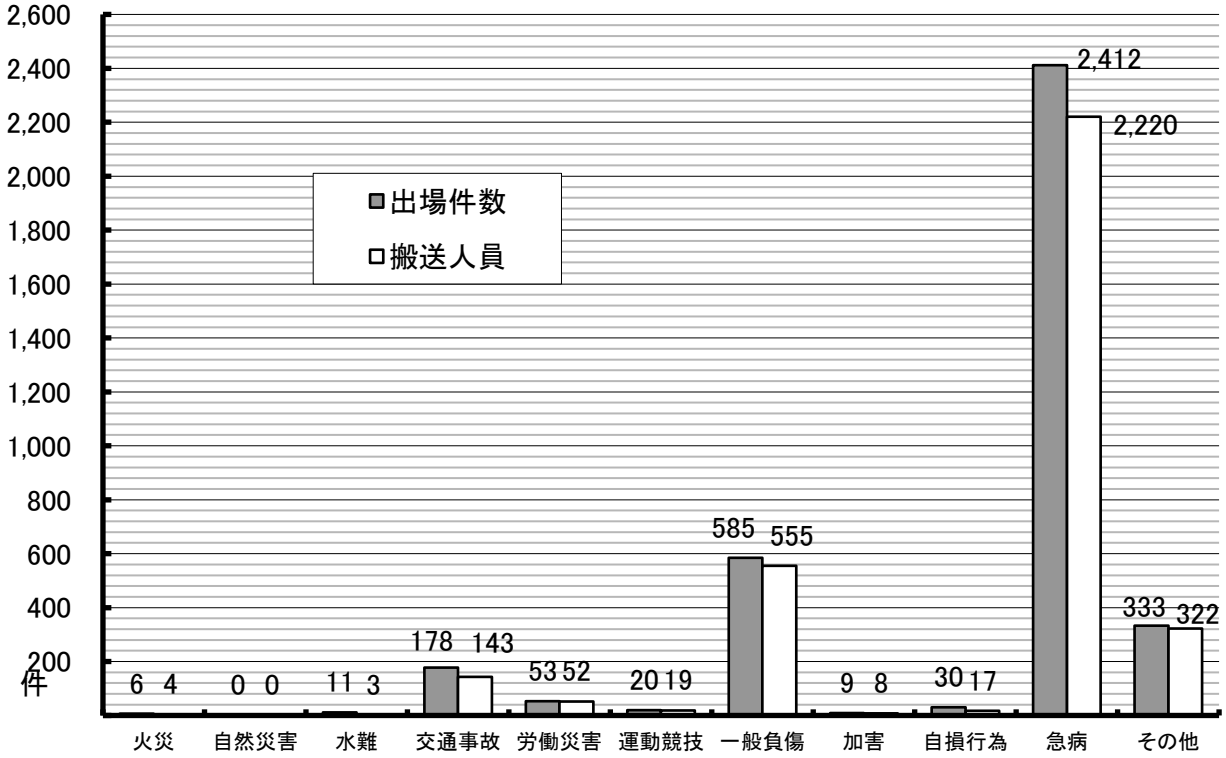
急病	一般負傷	転院・その他	交通事故	労働災害	自損行為	運動競技	水難事故	火災	加害	自然災害
2,412	585	333	178	53	30	20	11	6	9	0

救急事故発生場所別搬送人員



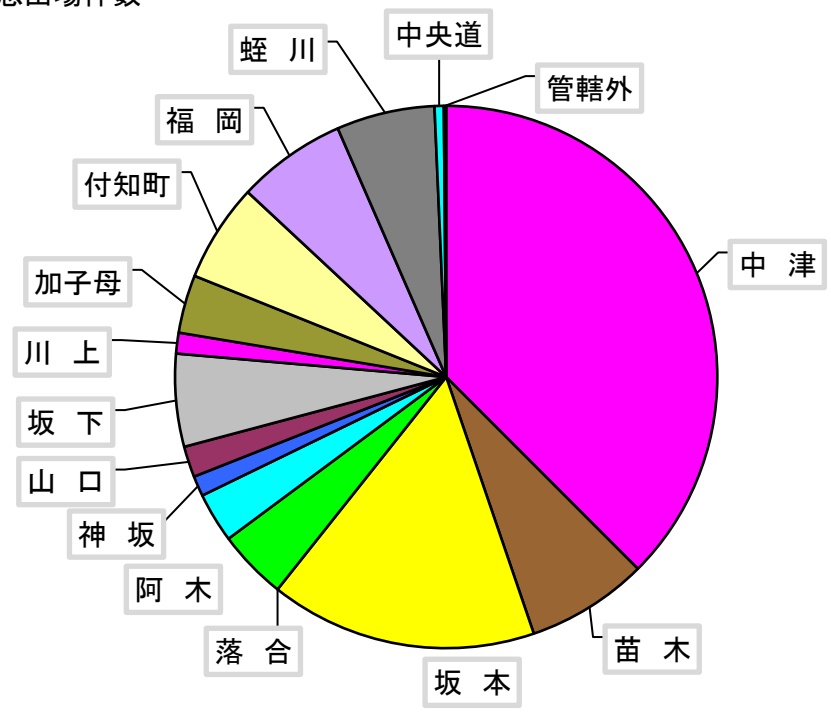
	住　宅	公衆出入所	道　路	仕 事 場	そ の 他	合　計
搬送人員	2,042	927	210	102	62	3,343

救急事故種別出場・搬送件数及び搬送人員



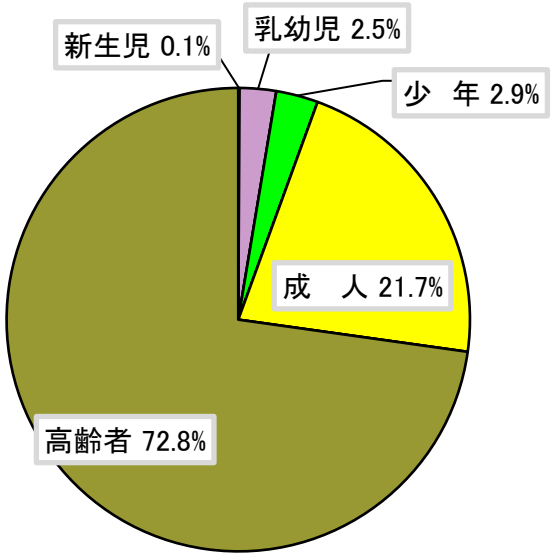
	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	合計
出場件数	6	0	11	178	53	20	585	9	30	2,412	333	3,637
搬送人員	4	0	3	143	52	19	555	8	17	2,220	322	3,343

地区別救急出場件数



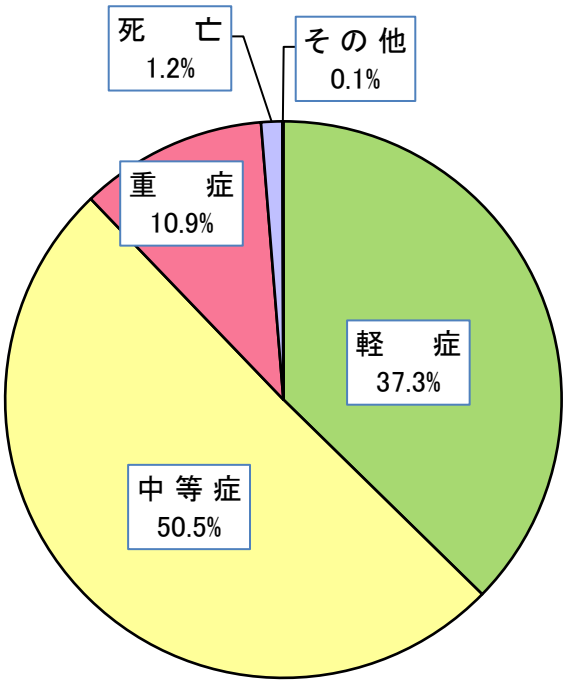
地　区	中　津	苗　木	坂　本	落　合	阿　木	神　坂	山　口	坂　下	川　上	加子母	付知町	福　岡	蛭　川	中央道	管轄外	合　計
件　数	1,364	264	579	151	108	44	67	201	45	126	213	237	213	20	5	3,637

年齢別搬送人員



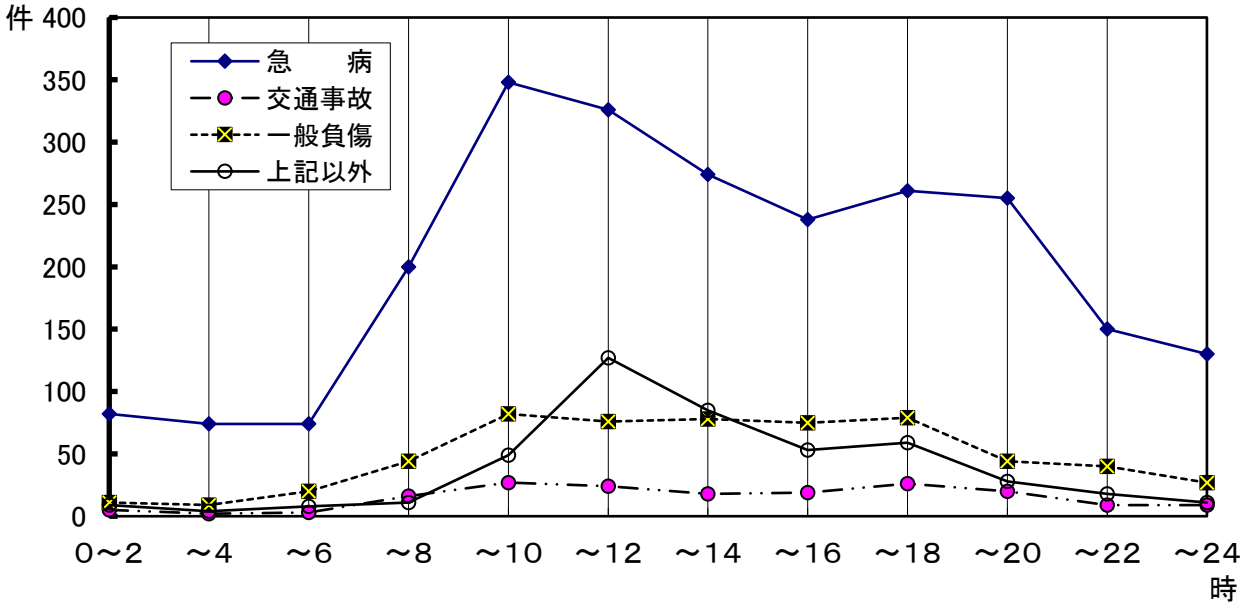
搬　送　人　員	新生児	乳幼児	少　年	成　人	高齢者	合　計
	（生後28日以内）	（生後29日～7歳未満）	（7歳以上～18歳未満）	（18歳～64歳）	（65歳以上）	
	3	85	98	724	2,433	3,343

程度別搬送人員



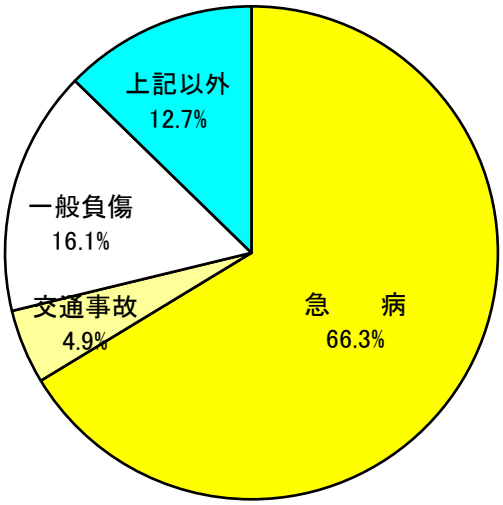
傷病程度	人
軽　症	1,248
中等症	1,688
重　症	364
死　亡	41
その他	2
計	3,343

時間別出場件数



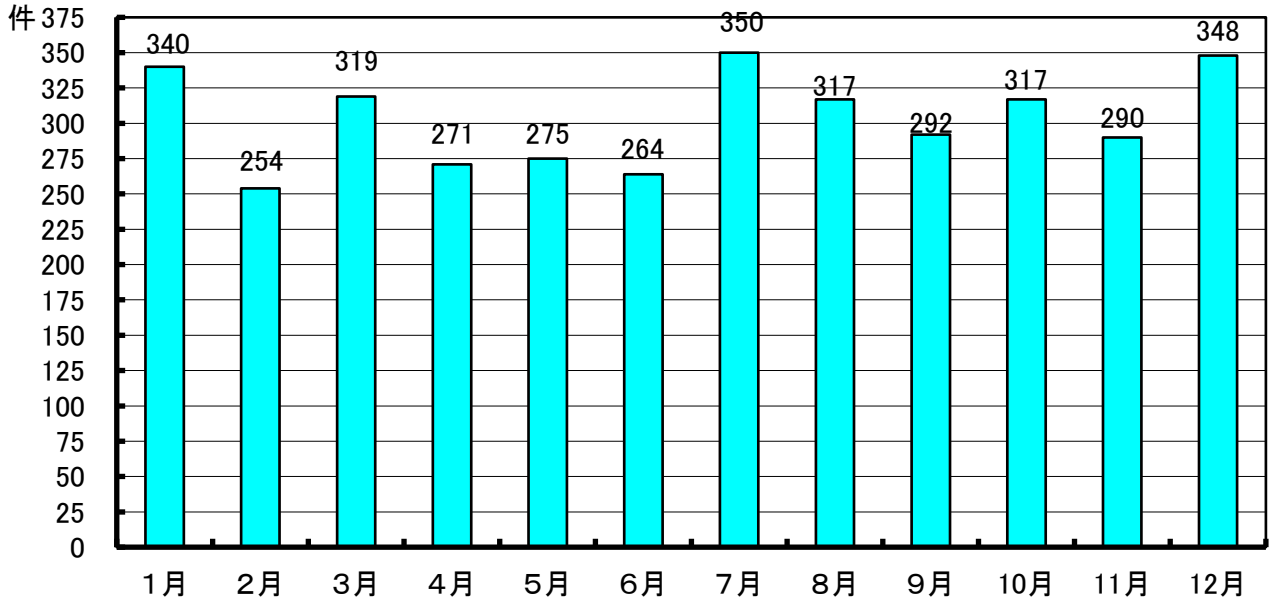
時間帯	0～2	～4	～6	～8	～10	～12	～14	～16	～18	～20	～22	～24
急　病	82	74	74	200	348	326	274	238	261	255	150	130
交通事故	5	2	3	16	27	24	18	19	26	20	9	9
一般負傷	11	9	20	44	82	76	78	75	79	44	40	27
上記以外	9	4	8	11	49	127	85	53	59	28	18	11

救急件数の事故種別及び割合



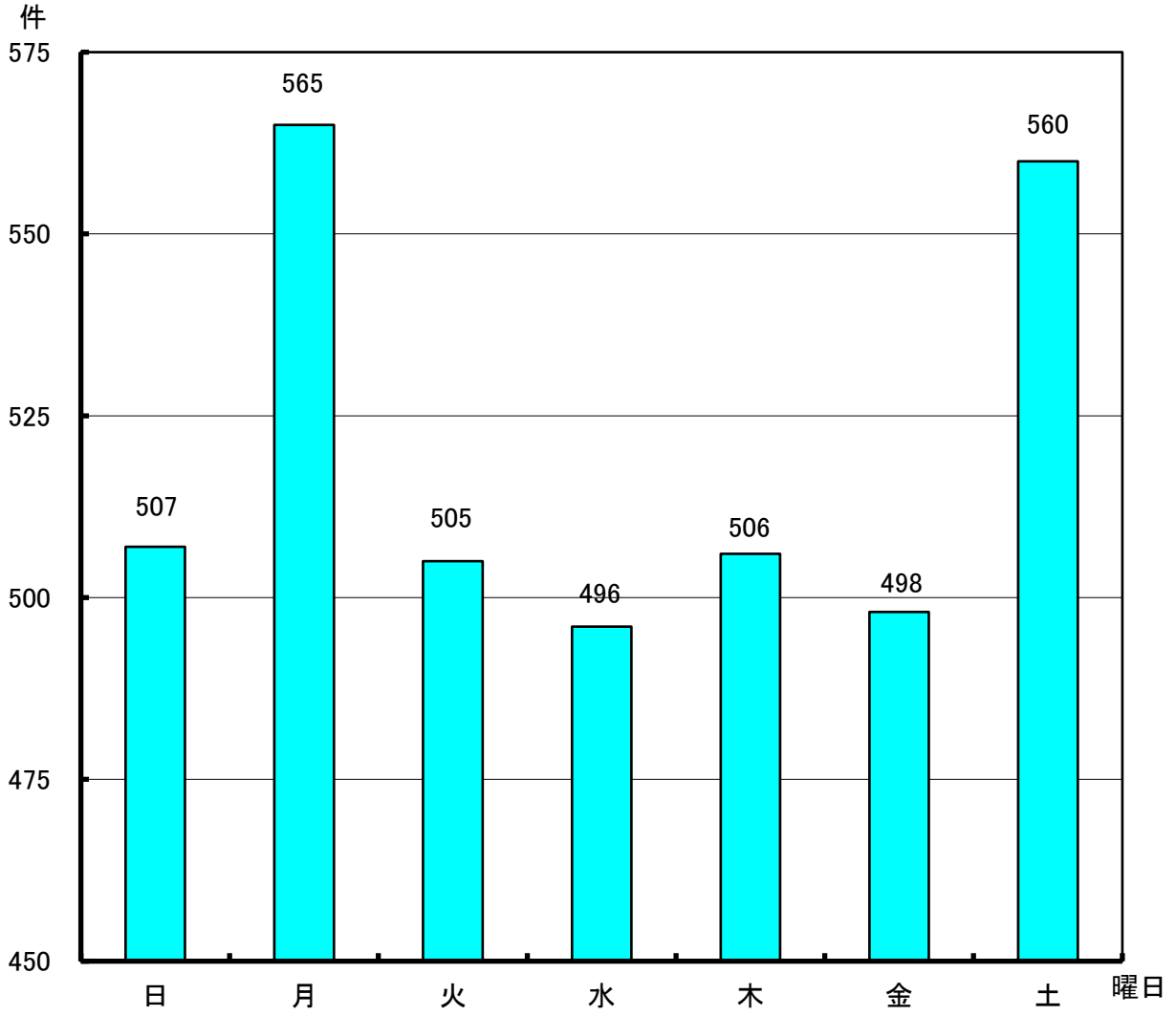
事故種別	件	計
急　病	2,412	3,637
交通事故	178	
一般負傷	585	
上記以外	462	

月別救急出場件数



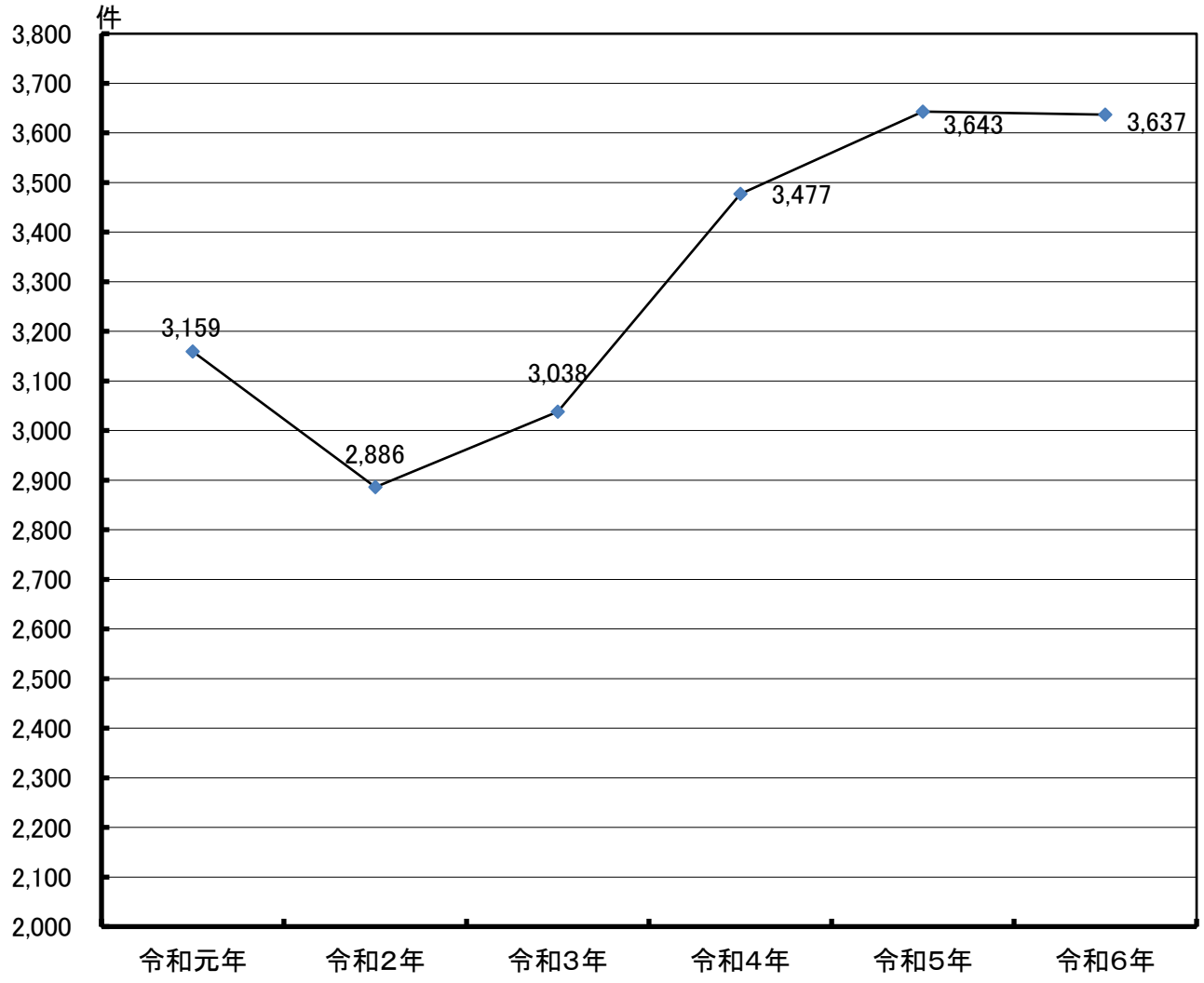
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
火　災		1				1				1	2	1	6
自然災害													
水難事故				1	2	1	1	2	1	1	2		11
交通事故	20	9	11	10	18	11	14	18	14	20	12	21	178
労働災害	4	1	7	6	1	1	6	9	6	6	2	4	53
運動競技		2	2	2	1	4	1	1	3	1	2	1	20
一般負傷	48	39	60	41	46	42	51	35	41	67	64	51	585
加　害		2	1		2			3	1				9
自損行為	6		3	3	3	3	3	1		4	3	1	30
急　病	233	180	207	169	176	177	234	222	195	200	174	245	2,412
そ の 他	29	20	28	39	26	24	40	26	31	17	29	24	333
合　計	340	254	319	271	275	264	350	317	292	317	290	348	3,637

曜日別救急出場件数



	日	月	火	水	木	金	土	合　計
火　災	1	1		1		1	2	6
自然災害								
水難事故	1		5	1	1	1	2	11
交通事故	17	27	19	17	35	31	32	178
労働災害	1	7	11	6	13	6	9	53
運動競技	8	1	1	3	1	1	5	20
一般負傷	103	84	59	88	82	69	100	585
加　害	1			1	3	2	2	9
自損行為	2	5	6	4	5	3	5	30
急　病	348	395	332	325	328	330	354	2,412
そ の 他	25	45	72	50	38	54	49	333
合　計	507	565	505	496	506	498	560	3,637

過去5年間の救急出場件数

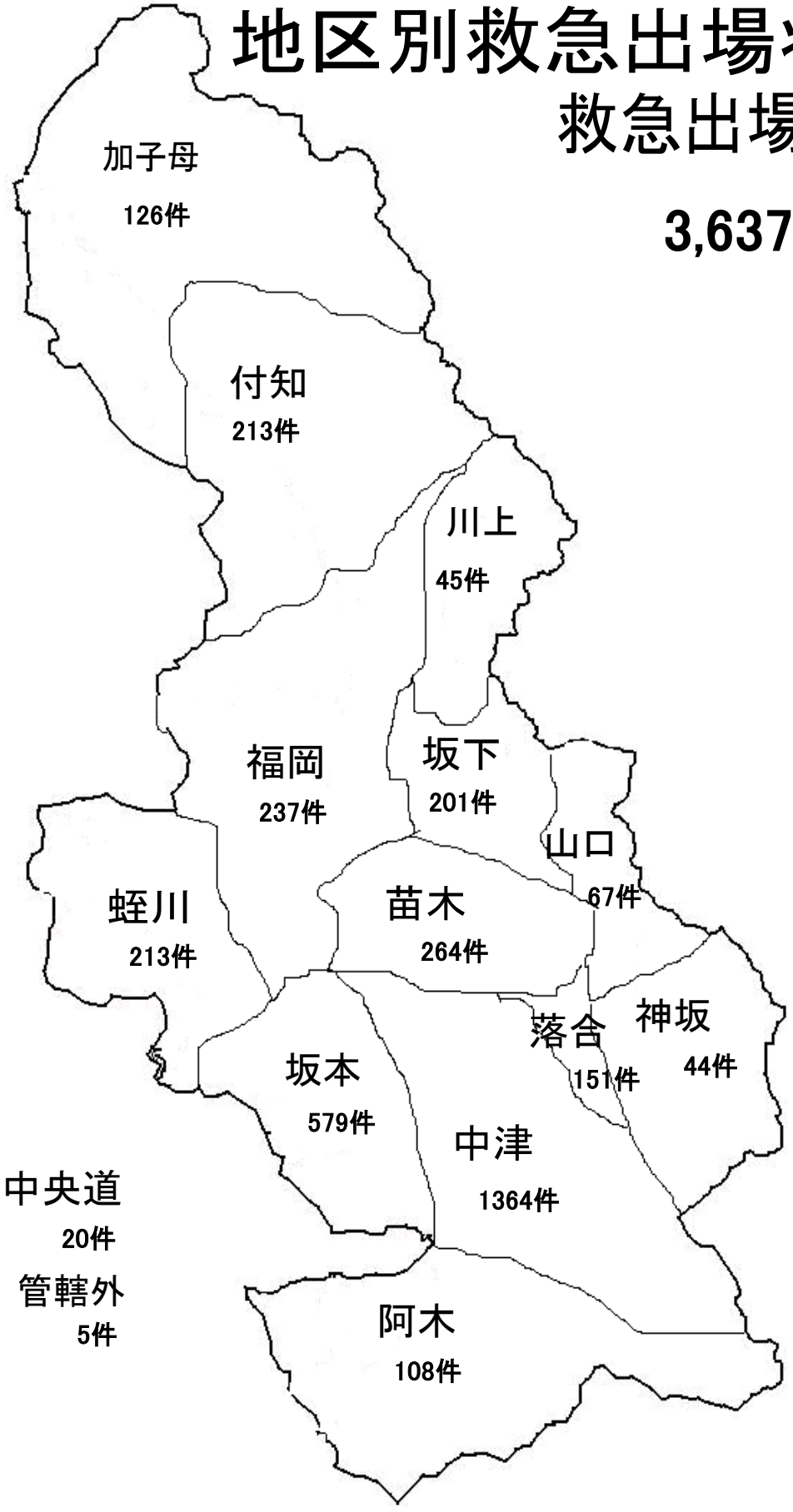


	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
火　　災	6	7	7	14	2	6
自然災害						
水難事故	3	2	9	7	7	11
交通事故	214	187	191	159	199	178
労働災害	40	35	38	51	50	53
運動競技	18	8	10	11	21	20
一般負傷	453	467	515	575	607	585
加　　害	4	1	4	5	7	9
自損行為	20	21	26	33	29	30
急　　病	2,101	1,882	1,937	2,169	2,361	2,412
そ の 他	300	276	301	453	360	333
合　　計	3,159	2,886	3,038	3,477	3,643	3,637

地区別救急出場状況

救急出場件数

3,637件



事故種別救助出場･活動件数(R6.01.01～R6.12.31)　　※(　)は活動件数

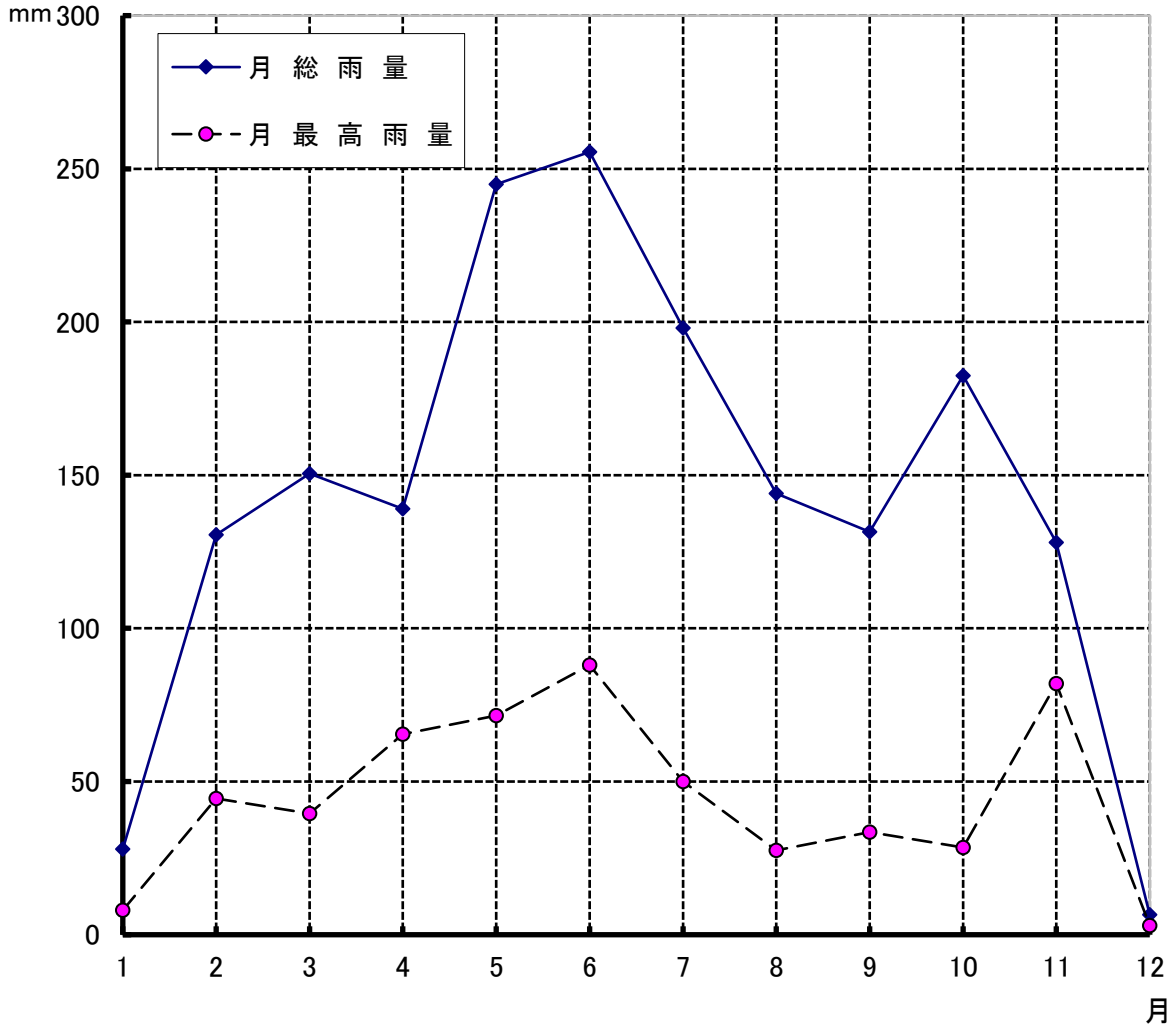
種別／地区	火災		交通事故	水難事故	風水害等自然災害	機械による事故	建物等による事故	ガス及び酸欠事故	破裂事故	その他の事故	合計
	建物	建物以外									
中　津			8 (3)	3 (2)		2 (1)	2 (2)	2 (2)		4 (3)	21 (13)
苗　木											0
坂　本							1	1 (1)			2 (1)
落　合			4 (3)								4 (3)
阿　木			1								1
神　坂				1						1 (1)	2 (1)
山　口											0
馬　籠			2							1	3
坂　下											0
川　上				1							1
加子母			2 (1)							2 (1)	4 (2)
付知町			2 (1)							3 (3)	5 (4)
福　岡			1	1 (1)						5 (4)	7 (5)
蛭　川				4 (4)							4 (4)
中央道			5 (1)								5 (1)
管轄外			1								1
合　計			26 (9)	10 (7)		2 (1)	3 (2)	3 (3)		16 (12)	60 (34)

主な救助活動

月　日	覚知時間	事故種別	事故発生場所	事故概要
1月21日	12:56	交通事故	中央自動車道下り線 281KP	車両の単独横転事故
1月25日	8:16	機械による事故	中津川市栄町　ビル内	ホテル内エレベーターの閉じ込め事故
5月24日	17:55	その他の事故	恵那山　前宮ルート登山道	登山道からの滑落事故
5月26日	12:07	交通事故	国道19号 落合与坂交差点	車両2台の正面衝突事故
6月15日	16:12	水難事故	田瀬地内付知川	遊泳中の溺水事故
8月3日	16:32	その他の事故	加子母　松尾木曽谷林道	山中で約30mの転落事故
8月4日	14:33	その他の事故	付知町　仙樽の滝付近	遊歩道から約3m下の岩盤へ転落
9月16日	9:57	その他の事故	中央自動車道下り線 276KP	作業中、地上10mの場所で股関節脱臼
9月21日	13:59	その他の事故	付知町　夕森山登山道	登山者1名が足を負傷し自力の下山不可
10月10日	20:32	交通事故	国道19号 上金新田交差点	交差点内、車両2台の衝突事故

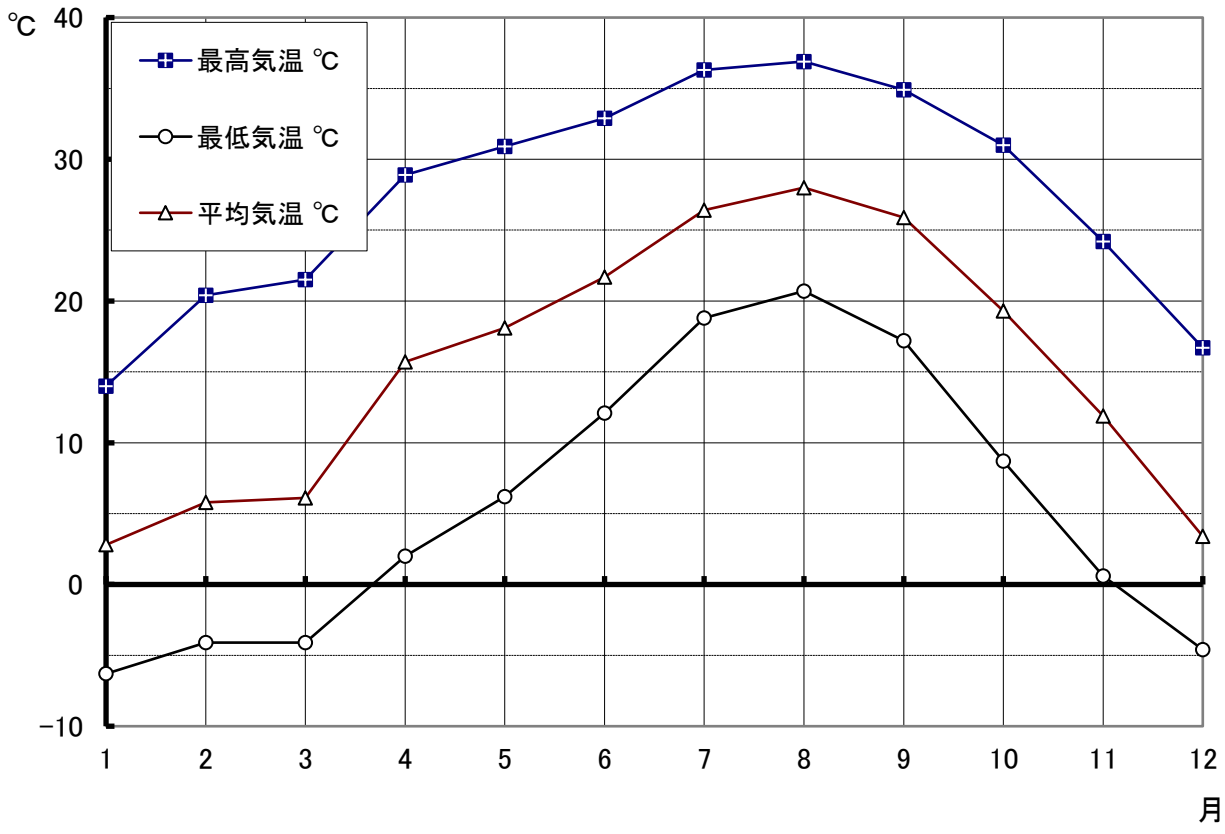
5　気 象 統 計

月別降雨量統計表



区分 / 月	降雨量 (mm)		
	降雨日数	月総雨量	月最高雨量
1 月	10	28.0	8.0
2 月	10	130.5	44.5
3 月	11	150.5	39.5
4 月	14	139.0	65.5
5 月	14	245.0	71.5
6 月	13	255.5	88.0
7 月	14	198.0	50.0
8 月	13	144.0	27.5
9 月	11	131.5	33.5
10 月	13	182.5	28.5
11 月	7	128.0	82.0
12 月	5	6.5	3.0
計	135	1739.0	年間最高降雨日
月平均	11	144.9	6月28日 88.0

月別気象統計表

区分 / 月	最高気温 ℃	最低気温 ℃	平均気温 ℃	平均湿度 %	平均風速 m/s	平均風向
1 月	14.0	−6.3	2.8	75.5	1.1	南
2 月	20.4	−4.1	5.8	75.0	1.1	南
3 月	21.5	−4.1	6.1	67.9	1.6	南
4 月	28.9	2.0	15.7	72.3	1.4	南
5 月	30.9	6.2	18.1	72.4	1.5	南西
6 月	32.9	12.1	21.7	74.5	1.4	南
7 月	36.3	18.8	26.4	73.5	1.4	南
8 月	36.9	20.7	28.0	71.1	1.4	南
9 月	34.9	17.2	25.9	73.0	1.4	南
10 月	31.0	8.7	19.3	77.6	1.0	南
11 月	24.2	0.6	11.9	74.5	1.1	南
12 月	16.7	−4.6	3.4	73.7	1.1	南
年 平 均	27.4	5.6	15.4	73.4	1.3	南

参 考 単位:℃	年最高気温	年最低気温
	8月17日	1月26日
	36.9	−6.3